2001年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
景気循環論		通　期	4単位	滝　田　和　夫

［講義概要・学習目標］

約10年にもおよぶ不況と停滞の末、ようやく回復の兆しが現れてきた日本経済であるが、アメリカの株価下落に引きずられた日本の株価低迷と輸出のかげり、リストラによる消費の冷え込み、そして財政破綻など、日本経済の先行きには楽観を許さない厳しいものがある。学生諸君は、自分の就職がどうなるのか不安に思うと同時に、なぜ資本主義経済において好況・不況の景気循環が存在するのか、疑問に思っていることだろう。この講義では、景気循環に関する標準的・基本的な理論を理解することに主眼を置き、併せてその問題点を検討していきたい。そこでは、リアル・ビジネス・サイクルなどの現代の景気循環論についてもできる限り言及する積もりであるが、力点はあくまでも基礎的な景気循環論の把握に置き、具体的にはヒックスの景気循環論の十分な理解あたりを目標としたい。なお、景気循環論はマクロ経済学の応用の側面をもつので、経済原論ＩＡ－２を修得済みであるか、またはこの講義と並行して履修されることが望ましい。

［講義計画］

1．景気循環とは何か
2．景気循環論の基礎
3．乗数・加速度モデル
4．不規則衝撃の理論
5．非線型景気循環論
6．均衡景気循環論

［成績評価の方法］

試験の成績による。

［教科書］

A.W.マリーノー（著）小島照男（訳）『ケインズ以後の景気循環論』（多賀出版）

［参考文献］

Ｊ．Ｒ．ヒックス（著）古谷弘（訳）『景気循環論』（岩波書店）
Ｍ．カレツキ（著）宮崎義一・伊藤光晴（訳）『経済変動の理論』（新評論）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
計量経済学		通期	4単位	荒木英一

［講義概要・学習目標］

経済理論を現実世界の経済データとつきあわせて、理論が主張する命題の正否を検証したり、経済予測に役立てようというのが、計量経済学の目的です。そのために、計量経済学では、統計学の知識を援用しながら、経済モデルを構成し、推計する作業を行います。経済モデルとは、エコノミストの頭のなかにある経済に関する知識を、誰の目にも見えるように、数式のかたちで表現したものといえるでしょう。推計とはモデルを現実のデータとつきあわせてみることです。試行錯誤を繰り返しながら経済モデルを改善して、検証や予測に役立てます。

この講義では、（受講者数にもよりますが）コンピュータを活用しながら、統計データ処理の基本からはじめて、経済学ではもっとも汎用的な実証分析手法である回帰分析を学んでいきます。

［講義計画］

1. 記述統計のいろいろ

2. 最小二乗法、決定係数

3. 統計的推定と検定の考え方

4. 回帰分析

詳細については、2000年度講義のホームページ
http://rio.andrew.ac.jp/araki/gakubu00.html
を参照のこと。

［成績評価の方法］

何回かの小テストと学年末試験による。

［教科書］

プリントと教材ファイルを配布。

［参考文献］

適宜に指定する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国民経済計算論 （旧産業連関論）		通期	４単位	桂　　昭政

［講義概要・学習目標］

国民経済計算の知識はマクロ経済学の勉強のみならず、経済の動き、特に日本経済の動きを理解するうえで不可欠と言える。本講義では、国民経済計算の基礎知識について学習するが、２０００年末からわが国の国民経済計算データが１９９３年に改訂されたＳＮＡに（すべてではないが）準拠するかたちで公表されることになったことを踏まえて、９３ＳＮＡの構造と特徴についても言及する。それとともにわが国の国民経済計算データを利用して日本経済の動向の把握をも併せて行っていきたいと考えている。なお、理解を深めるために可能な限りデータのパソコン処理の実習を行っていきたいと思っている。

［講義計画］

１．ＳＮＡと日本の経済循環－生産、所得分配、蓄積の側面を中心に－
２．ＳＮＡと日本の経済循環－ストック（資産）の側面を中心に－
　さらに時間的余裕があれば３．サテライト勘定についてもふれる。

［成績評価の方法］

年度末に行う試験結果を主とし、それにレポートを加味して判定する。

［教科書］

教科書を使用しないので講義に出席してノートをとること。

［参考文献］

武野秀樹・山下正毅編著『国民経済計算の展開』（同文舘）
武野秀樹・金丸哲編著『国民経済計算とその拡張』（勁草書房）
桂　昭政『福祉の国民経済計算－方法とシステム－』（法律文化社）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日　本　経　済　史	０１	通　期	４単位	梅　本　哲　世

［講義概要・学習目標］

「バブル」の崩壊や旧「社会主義体制」崩壊と共に、いま世界経済・日本経済は大きな転換点にある。このような時期であるからこそ、過去を振り返ってそこから学び、現在を批判的に見つつ未来を展望する作業が必要不可欠になるだろう。この講義では、幕末から第２次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第１に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第２に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。
歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。

［講義計画］

【前期】
１.経済史の基本概念
２.幕末の経済と開港
３.明治維新
４.殖産興業と松方財政
５.近代産業の発達－軽工業
６.近代産業の発達－重工業
【後期】
１.日清・日露戦争と日本経済
２.第１次世界大戦と日本経済
３.１９２０年代
４.昭和恐慌
５.高橋財政
６.戦時経済

［成績評価の方法］

随時出席調査および小テストをおこない、学年末試験の成績とあわせて評価する。

［教科書］

三和良一著『概説日本経済史　近現代』（東京大学出版会）

［参考文献］

石井寛治著『日本経済史［第２版］』（東京大学出版会）
安藤良雄編『近代日本経済史要覧』（東京大学出版会）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本経済史	０２	通　期	４単位	山田雄久

［講義概要・学習目標］

本講義では、近世～近代における日本経済の成長史について論じます。徳川期には全国的な農業の発展とともに、商工業が都市部を中心として展開し、農村部でも在郷町などを拠点に商工業が次第に発達しました。決して徳川経済は農業のみに止まっていたとはいえないのです。農村部を中心にさまざまな特産物が誕生し、本格的工業化の準備を着々と進めていた事実に注目したいと思います。明治期以降農村を中心に発達を遂げた商工業を軸に、日本の工業化を推進した在来産業が技術革新を通じて次第に近代的産業へと転換していきます。このような視点から、日本経済の基礎を築いた在来的経済発展について考察します。

［講義計画］

1　近世日本の市場経済
2　人口史・物価史
3　商業発展と貨幣・金融
4　幕末の経済発展
5　明治維新と財政・金融
6　企業勃興
7　日清・日露戦後経営
8　国際貿易・金融

［成績評価の方法］

学年末試験の成績で評価します。

［教科書］

特に指定しません。

［参考文献］

西川俊作「日本経済の成長史」（東洋経済新報社、１９８５年）
新保博「近代日本経済史」（創文社、１９９５年）
藤田貞一郎・宮本又郎・長谷川彰「日本商業史」
（有斐閣、１９７８年）
三和良一「概説日本経済史　近現代」
（東京大学出版会、１９９２年）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
西洋経済史		通　期	４単位	前田治郎

［講義概要・学習目標］

１８世紀後半のイギリスに始まる産業革命は、人類史的観点からしても、巨大なインパクトをもった。それ以後、資本主義という経済システムが確立・発展し、その下で、人間の生産力は加速度を加えながら飛躍し今日に至る。とはいえ、この過程は常に平坦な道のりであったわけではない。すなわち、一方で、経済成長が順調に進展する時期と成長が鈍化し様々な対立が生じる時期が交替したし、また他方では、資本主義の世界的展開過程において、戦争に象徴されるような諸国民国家間の対立も伴わざるを得なかった。本講義では、イギリス産業革命から第１次大戦までを対象時期として、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける各国資本主義の確立・展開過程を縦軸に、各国資本主義の関係の緊密化＝資本主義の世界体制の形成過程を横軸にとり、いわゆるパクス・ブリタニカの歴史的発展を考えたい。

［講義計画］

1．イギリス産業革命と各国の対応
2．イギリス資本主義の再編成
3．パクス・ブリタニカの生成と発展
4．大不況期と独占資本主義

［成績評価の方法］

後期試験と授業中に数回行う予定の小テスト

［教科書］

［参考文献］

藤瀬浩司　（著）　『資本主義世界の成立』（ミネルヴァ書房）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経　済　政　策		通　期	４単位	津　田　直　則

［講義概要・学習目標］

経済政策論は政府の目標と手段の関係について議論する学問分野である。目標と手段の関係が制度や秩序のレベルで議論される場合には、問題は経済体制論にまで広がる。数量的な経済変数のレベルで議論される場合には、経済政策論はマクロやミクロの経済理論と関係してくる。前期は経済政策論の全般的な問題を扱う。後期は経済政策論の各論を中心に扱う。

他の科目との関係について。経済理論の知識が必要となるので経済原論ＩＡを履修していることが望ましい。

毎回、講義内容を要約した資料を配付する。

［講義計画］

前期
１．経済政策論の対象と課題
２．経済政策思想
３．経済政策の目的と手段
４．秩序政策とその具体例
５．市場機構と経済政策
後期
６．マクロ理論と経済政策
７．マクロ計量モデルと経済政策
８．財政政策
９．金融政策
10．雇用問題と経済政策
11．規制緩和と経済政策
12．イノベーションと経済政策

［成績評価の方法］

前期、後期のテスト

［教科書］

［参考文献］

丸谷冷史、家森信善編『経済政策講義』中央経済社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界経済事情		通　期	4 単位	モグベル　ザファル

［講義概要・学習目標］

世界経済における今日的トピックスについて分かりやすく解説する。講義の目的としては、受講生が新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの解釈とオピニオンを持てるようになれば幸いである。

今日の世界経済では「対岸の火事」と悠長(ゆうちょう) なことは言っていられない。すべてが同時進行で展開し、ボーダレスに迫って来る。「GLOBAL」と「 LOCAL」の垣根がぼやけて行く中で世界の経済事情に関するより的確な情報と理解が問われていることは言うまでもない。このような見地に立ってこの講義では世界経済に関連したトピックスを取り上げて日本国内の問題に関連づけながら説明する。主に以下のようなテーマの中からタイムリーなトピックスを抽出して講義する。ただし、「世界経済入門」以降は順不同。

［講義計画］

1. 世界経済入門
   - 先進国・中進国・途上国とその他の分類の根拠と意味
   - 今日の世界経済のルールとその起源
   - GATT・WTO と世界貿易
   - IMF と国際金融体制
   - 国際収支の仕組みと日本の国際収支の最近の動向
2. 開発途上国の実態と戦略
3. NIEs 諸国の実態と戦略
4. アジア通貨危機の終焉?
5. ODA は世界を貧困から救えるか?
6. 経済摩擦はだれの責任?
7. 地域主義は「妙薬」なのか? EU, NAFTA, APEC を巡って
8. 先行き不透明なアメリカ経済
9. 石油と一次産品問題

［成績評価の方法］

成績評価は原則として年度末に行う試験結果による。

［教科書］

宮崎　勇　・　丸茂　明則（編）「世界経済読本」（東洋経済新報社）

［参考文献］

平成１２年版通商白書（総論）「グローバル経済と日本の針路」

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
現代資本主義論		通　期	4単位	濵　田　博　男

［講義概要・学習目標］

米ソ冷戦体制崩壊後の１９９０年代、まだ、新しい世界の政治・経済秩序は確立されていない。旧社会主義圏の経済困難、民族・地域紛争の多発などのほか、先進資本主義国もまたそれぞれに困難な課題を抱えている。市場経済のグローバル化、メガコンペティションの時代のなかで 、政治・経済・社会のすべてが大きな変革の必要に迫られている。深刻な構造不況からの脱出に苦しんでいる日本は？独り好調を続けてきたアメリカは？通貨統合を果たしたヨーロッパは？そして日本と関係の深いアジアは？これからどうなるのか。

グローバルな地殻変動のなかで、２１世紀の世界と日本について考えるべき課題は多い。本講義では、日本経済を中心にしながら、現代資本主義の抱える諸問題について考えていきたい。

［講義計画］

講義で取り上げるテーマ（参考例）

１．冷戦終焉後の世界と日本
２．日本型資本主義とアメリカ型資本主義
３．バブル崩壊後の日本経済
４．銀行不良債権と金融システム不安
５．産業構造の変化と“産業空洞化”問題
６．“規制緩和”問題
７．日米関係－経済摩擦問題を中心に－
８．東アジア経済圏の抱える諸問題と日本の役割
９．２１世紀への課題
その他

［成績評価の方法］

原則として年度末試験の成績による。
（年度途中にレポートを課すこともある）

［参考文献］

レスター・Ｃ・サロー（著）／山岡洋一・仁平和夫（訳）『資本主義の未来』（ＴＢＳブリタニカ）
日本経済新聞社（編）『ゼミナール・日本経済入門』（日本経済新聞社）

［教科書］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本経済論		通　期	4単位	鈴　木　健

［講義概要・学習目標］

２０世紀最後の１０年間、日本経済は先進資本主義国のなかでも例外的な長期不況のただなかにあり、政治の衰退もあって、なお成長への転換の糸口をつかめていない。それは、事実上アメリカの単独占領下で進められた戦後経済改革によって「温存」された戦後大企業体制の行き詰まりを象徴的に示している。そこで本年度は、戦後の日本経済を大企業体制の再建・確立・展開・行き詰まり・再編の歴史を中心に概観し、とりわけ８０年代～９０年代の行き詰まり・再編に重点を置いて検討することにする。

前期には、戦後日本の大企業体制の仕組み、その再建・確立・展開の歴史を検討し、後期には、大企業体制の行き詰まりと、行き詰まりを脱却すべく打ち出される大企業体制「再編」の方向について検討する。後期の重点は、８０年代後半のバブルの膨張から９０年代におけるバブルの崩壊と長期不況の検討である。その検討をつうじて、日本の経済システムを国民本位の経済システムに転換する展望についても触れることにしたい。

［講義計画］

. 第１回、年間講義計画の概要
・第２回、財閥解体①
・第３回、財閥解体②
・第４回、財閥と企業集団①
・第５回、財閥と企業集団②
・第６回、メーンバンク制の確立①
・第７回、メーンバンク制の確立②
・第８回、株式相互持ち合い①
・第９回、株式相互持ち合い②
・第10回、高度成長と大企業体制①
・第11回、高度成長と大企業体制②
・第12回、高度成長と大企業体制③
・第13回、７０年代以降の大企業体制 ①
. 第14回、７０年代以降の大企業体制②
・第15回、７０年代以降の大企業体制③
・第16回、７０年代～８０年代前半の大企業体制①
・第17回、７０年代～８０年代前半の大企業体制②
・第18回、７０年代～８０年代前半の大企業体制③
・第19回、バブル膨張と大企業体制①
・第20回、バブル膨張と大企業体制②
・第21回、バブル膨張と大企業体制③
・第22回、バブル膨張と大企業体制④
・第23回、長期不況下の大企業体制①
・第24回、長期不況下の大企業体制②
・第25回、長期不況下の大企業体制③
・第26回、長期不況下の大企業体制④

［成績評価の方法］

次の二つの評価の総合による。
・第一、学年末試験の評価（６割配点）
・第二、年４回行うレポート（４割配点）

［参考文献］

・井村喜代子『日本経済論』（有斐閣）
・橘川武郎『日本の企業集団』（有斐閣）
・鈴木健『日本の企業集団』（大月書店、１９９３年）
・中村孝俊『現代日本資本主義』（新日本出版社）
・橋本寿郎編『日本経済の発展と企業集団』（東大出版会）
・大槻久志『金融恐慌とビッグバン』（新日本出版社、１９９８年）
・工藤晃『現代帝国主義研究』（新日本出版社、１９９８年）

［教科書］

・鈴木健『メインバンクと企業集団』（ミネルヴァ書房、１９９８年）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
生活経済論(旧経済学特講－生活経済論)		通期	4単位	木村二郎

［講義概要・学習目標］

この科目の特色は、生活者の視点から日常生活に密着した生活と経済に関する具体的知識の解説を中心に、社会科学や自然科学さらには行政関係者などの各分野の専門家が講義を担当する点にある。

学習目標としては、第1に、身近な生活経済の場における諸問題の実際を学ぶこと、第2に、日本の生活経済の現状の問題点を認識し、その改善の方向性を自分なりに考え出すことである。

［講義計画］

講師の都合により変更がありうるが、次のような内容についての講義を予定している。

1. 生活を取り巻く環境、 2. 生活と行政、 3. 生活と災害、4. 生活と情報
5. 生活と健康・医療、 6. 生活と保険、 7. 生活と金融、 8. 生活と法律
9. 潤いのある生活(教養と娯楽)

［成績評価の方法］

期末試験。

［参考文献］

経済企画庁編『国民生活白書』各年版

［教科書］

なし

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
財政学		通期	4単位	藤岡純一

［講義概要・学習目標］

財政とは、国や地方自治体など公共部門の経済活動のことである。その規模は、先進諸国において、今やＧＤＰ（国内総生産）の３分の１から２分の１に達している。現代経済は財政ぬきには語れない。

財政の役割として、福祉・教育・保険・年金・防衛・公共事業などがある。また、所得税・法人税・消費税・自動車関係税などは、国の経済の重要な収入源である。さらに、　財何十兆円という国債が1998年度に発行された。国債は将来の税負担となる。

財政を考えるうえで重要なのは、民主主義の視点である。これをわれわれは財政民主主義と呼ぶ。何よりも、納税者である国民が納得のできる財政であることが望ましい。国の支出は国民生活の向上という形で国民に還元されているか？　税制度は国民にとって公平であろうか？

一年間の講義によって、学生諸君が財政についてさまざまな問題意識を持つことを期待している。

［講義計画］

前半は、現代財政の概要を説明する。例えば、以下のような内容である。

１．現代経済と公共部門
　公共部門の役割と経費
　財政のグローバル化
　公共投資と財政
　人口高齢化と財政
　環境と財政

２．税制と税制改革
　租税の基礎理論
　所得税・法人税
　消費課税と資産課税
　税制改革の理論と実

後半は、スウェーデンの財政を日本や他の国と比較しながら説明する。

①21世紀の福祉社会－－生活権の視点
②すべての国民への標準的な社会保障サービス
③高い社会保障サービスを支える財政
④福祉をめぐる地方分権と地方財政
⑤分権的福祉社会と国民の世論
⑥財政・経済政策理論の伝統

スウェーデンは、分権型福祉社会の典型として、大変興味ある国である。

［成績評価の方法］

主として試験で決める。時々出席をとる。

［参考文献］

重森・鶴田・植田編『Basic財政学』有斐閣、1998
藤岡純一編著『スウェーデンの生活者社会－地方自治と生活の権利－』青木書店、1993年。

［教科書］

前半はテキストなしでおこなう。
後半はテキストを採用するが、これについては授業中に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
金　融　論		通　期	4単位	木　村　二　郎

［講義概要・学習目標］

「金融大再編」「ネットバンキング」「ペイオフ解禁」などという言葉に代表されるように、私たちを取り巻く経済の中で、改めて金融に関わる出来事が注目されている。この講義は、金融の基本的な内容をまず説明した上で、今日の金融諸現象の意味するところは何かを明らかにする。

「貨幣」「信用」「銀行」「証券」「外国為替」など金融に関わるさまざまな言葉の意味するところは何か。金融は現代の経済においてどのような役割を果たすのか。このような金融に関わる基本的な内容をまず明らかにすることから始めて、次に、今日の日本経済における金融がいかに運営され、どのような制度再編の波にもまれているのかを明確にしていく。 そして、私たち生活する者にとって、この金融制度再編の持つ意味は何かを解明する予定である。

学習の目標としては、金融の基本的な理論と制度・政策を理解すること、および、新聞などを通じて得られる現状の金融諸現象の内実を理解する能力を身につけることである。

［講義計画］

テキストに沿って、「金融とは何か」「貨幣制度の変遷」「企業金融」「市中銀行」「中央銀行」「金融仲介機関とその他金融機関」「金融市場と金利」「外国為替市場と国際金融市場」「国際決済システムと円」「金融の自由化と国際化」の順に講義を進める。

［成績評価の方法］

小テストと学年末試験の総合評価。

［教科書］

関根猪一郎・木村二郎・大畠重衛・小西一雄著『金融論』青木書店、2000年

［参考文献］

小塩隆士著『新・日銀ウオッチング』日本経済新聞社、2000年

高田太久吉著『金融グローバル化を読み解く：10のポイント』新日本出版、2000年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
統計学総論		通期	4単位	野田知彦

［講義概要・学習目標］

社会・経済現象を分析し、その背後にある規則性を導き出すための有効な方法の一つに統計的な方法がある。この講義では経済学などの社会科学で必要とされる統計学の基礎を学習し、様々なデータを分析するための初歩的な統計分析方法の取得を目標とする。具体的には、記述統計と推測統計の基本的な考え方や基礎的な手法を学ぶこととする。今年度は可能な限りパソコンを使いたい。なお、統計学の理解には系統的な履修が必要となるので、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位の取得も困難になることは言うまでもない。

［講義計画］

授業中に指示する。

［成績評価の方法］

前、後期のテスト

［教科書］

「統計学入門」 森棟公夫　新世社

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済数学		通　期	4 単位	安　藤　洋　美

[講義概要・学習目標]

経済学に数学が使われたのはとても古く、１８世紀のダニエル・ベルヌイに溯る。それ以後、１９世紀の中頃、クールノーによって『富の理論の数学的原理に関する研究』が出版されて以来、急速に経済学の諸概念を数学的に表現することが市民権を得た。この講義では、経済学の内容のいくつかを、日常言語でなく、数式で簡潔に表現すること；経済現象のモデルの表現と解析の手段として、微積分を利用することを理解させたい。もっと端的にいえば、極値問題、特に条件付極値問題を解くことを中心に説明したい。教科書は使用しないので、よく講義を聴くこと。

[講義計画]

＜前期＞１変数の微分法（経済学に出てくる諸関数とその限界量など）
多変数の微分法（生産の均衡、消費の均衡）
＜後期＞微分方程式（所得変動、成長理論など）
確率微分方程式（ブラウン運動と株価変動など）

[成績評価の方法]

前期と後期の最後の時間に試験して評価する。

[教科書]

教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済統計		通期	４単位	桂　昭政

[講義概要・学習目標]

経済統計は、新聞紙上等でＧＤＰ，失業率、消費者物価指数等の経済指標が報告されるごとく事実認識手段として、また理論あるいは仮説の検証ないし実証手段として今日よく利用されている。本講義では日本経済の全体像を把握するうえで、あるいは日本経済の現状を理解するうえで肝要なＳＮＡ統計、とりわけ国民所得統計の特質と利用について、および個別のミクロ統計である産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質ないし利用を中心に講義を進めていく。講義を通じて日本経済の現状の理解を深めるとともに、パソコンによる計算、グラフ作成等の実習を可能な限り行い、日本経済の現状についての理解がより一層深くなるようにしていきたいと考えている。

[講義計画]

１．国民所得統計の特質と利用
２．産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質と利用

[成績評価の方法]

年度末に行う試験結果を主とし、それにレポートを加味して判定する。

[教科書]

岩井・泉・良永（編著）『情報化社会の統計学（改訂版）』（ミネルヴァ書房）

[参考文献]

吉田忠・石原健一編『統計にみる日本経済』（世界思想社）
木下・土居・森編『統計ガイドブック　社会・経済（第２版）』（大月書店）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済情報処理論		通期	4単位	野田知彦

［講義概要・学習目標］

現代社会で生き抜いてゆくためには、コンピュータに関する知識は必要不可欠である。本講義では、表計算ソフトの使い方を初歩からマスターし、経済データの処理の方法をマスターするとともに情報処理の基礎知識を身につけることを目標している。コンピューターの使い方をマスターしながら、企業レベルのミクロデータと国民経済全体を表すマクロデータを用いて、日本経済の現状分析を進めたい。とりわけ、賃金、雇用、失業などの動きに注目したい。系統的な履修が必要となるので、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位の取得も困難になることは言うまでもない。

［講義計画］

授業中に指示する。

［成績評価の方法］
レポート、テスト

［教科書］

なし

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
計算機演習	０１ ０２	通　期 通　期	４単位 ４単位	井　田　憲　計

［演習概要・学習目標］

(1) はじめにパソコン初心者を対象にした基本操作練習を行なう。

(2) 経済学の理論や実証分析手法を学ぶ上で必要な予備知識をパソコン演習のなかで習得することをめざす。なるべく多くの経済データに生に触れると同時に、経済理論や統計手法の導入部分となる解説も行う。

この講義で習得したことがらは、学生生活においてはもちろん、社会に出てからもきっと必要となり、おおいに役に立つものであろう。

［演習計画］

(1) コンピュータに関する基礎知識、Windowsの操作方法、ファイルやフォルダの取り扱いなど
(2) タッチタイピングとワープロ
(3) 電子メールとWWWブラウザ
(4) ホームページの作成
(5) 表計算ソフトの基本操作
(6) マクロ経済データ
　国民経済計算（経済成長率のヒミツ）
　産業連関表　（経済波及効果って？）
(7) 金利・株価・為替など
　表計算ソフトでの分析ことはじめ
(8) データ処理
　アンケートのクロス集計
　ＶＢＡマクロ
(9) 確率変数と乱数シミュレーション

［成績評価の方法］
何回かの課題提出と出席率。

［参考文献］
図書館にある「指定図書」など、
適宜指示する 。

［教科書］
プリントを配布。
講義のホームページ（http://rio.andrew.ac.jp/~ida）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
計算機演習	03 04	通期 通期	4単位 4単位	橋本圭司

［演習概要・学習目標］

コンピュータは、社会活動のあらゆる分野で幅広く使われており、まさしく今日の社会における「読み・書き・ソロバン」の役割を果たすものといってよいであろう。本演習では、このような社会の変化に対応することはもとより、理科系、文科系を問わず、今日の大学教育におけるさまざまな履修科目の学習に役立つような、レポートやレジュメ作成など、コンピュータを資料の収集と分析、報告書作成のためのツールとして利用できるための技術(コンピュータリテラシ)を養うことを目的とする。ワープロ、表計算、インターネットなど、コンピュータ利用に関して必ずしも特定のソフトウェアの機能解説に重点をおくのではなく、コンピュータに触れるのは初めて、という受講者を念頭において、日本語入力、ワード、Eメール、インターネット、エクセルなどを、「一応は使いこなせる」という段階に向けて演習を行っていく。

［演習計画］

講義の計画については、用いられる教科書の目次にしたがって、以下のような項目を設定しておく。

1. ウィンドウの操作とマウス、キーボードの役割
2. 文字の入力、タッチタイピング、日本語入力
3. 編集、文字の装飾機能、保存印刷機能
4. 作表と罫線
5. 電子メールの基礎
6. ｗｗｗブラウザの基本操作
7. 表計算の基本操作
8. セル番地と関数
9. グラフウィザード

ただし、毎回ないし2回程度で学習した事柄を応用、実践できるよう講義することとし、それに対応する演習課題を提出する。

［成績評価の方法］

毎回提出する演習課題の成績を累積し、通年の評価とする。

［参考文献］

本演習で直接の教材として用いるものではありませんが、本演習での学習到達目標と合致するものとして、次ぎの文献をあげておきます。

小浜裕久・木村福成著
『経済論文の作法　勉強の仕方・レポートの書き方』日本評論社

［教科書］

植松康祐編
『Windows版　コンピュータリテラシ[基礎編]』
サイエンス社　2000年　定価(1200円＋税)

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
計算機演習	05 06	通　期 通　期	4単位 4単位	村　松　郁　夫

［演習概要・学習目標］

本講義は，パーソナルコンピュータを利用した実習形式で授業を進める。講義の目的は，様々なミクロおよびマクロ経済データを実際に「処理」することを通して，経済学で扱われる問題やその分析手法などについての知識を深めることにある。

データの処理には，①必要なデータを検索し，抽出する，②抽出されたデータを加工し，分析する，③分析結果を整理し，伝達する等の手順が含まれる。本講義では，データの検索・抽出に関しては，企業財務データやNEEDSのマクロ経済データなどのデータベースを適宜利用する。データの加工・分析，分析結果の整理・伝達に関しては，表計算ソフトやワードプロセッサを組合せて用いる。

なお，データの保存用として，3.5インチ2HDのフロッピー・ディスクを2，3枚，持参すること。

［演習計画］

<リテラシー>

1. コンピュータに関する基礎知識，Windowsの操作方法，ファイルやフォルダに関する基礎知識，および，それらの操作方法
2. インターネットの利用方法（電子メール，WWW，ホームページの作成方法など）
3. ワードプロセッサの操作方法

<MS-Excel>

4. MS-Excelの基本操作
5. 経済データ解析の基礎知識（式や関数の利用）
6. 統計データの利用方法（データベース機能，オートフィルタ，ピボットテーブル）
7. 統計的処理の方法（基本統計量，回帰分析）
8. ＶＢＡの利用（分析手順の整理とマクロによる処理の自動化）

［成績評価の方法］

講義の最初に実習内容についての説明を行い，各自実習する形式で授業を進める。講義終了時に，毎回，実習結果をレポートとして提出してもらい，その内容で成績を評価する。

［参考文献］

コンピュータに関する参考書は，最新のものを利用することが望ましいので，適宜，紹介する。なお，自分が現在利用している参考書で代替してもらってもよい。

［教科書］

開講時に指定する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学特講（外国直接投資と発展途上国）		**通　期**	4単位	何（カ）　為（イ）

[講義概要・学習目標]

世界における直接投資の大部分は先進国間での直接投資であるが、発展途上国の中でも特にアジア諸国は多くの直接投資を引き付けることに成功した．直接投資は受け入れ国の発展途上国に対してどのような影響を与えているだろうか．本講義では、中国を中心に考えたい．

[講義計画]

前期：直接投資が発展途上国の経済発展に積極的な役割を果たしていることを踏まえて、直接投資の定義及び発展途上国におけるその経済的な役割に関する理論を講義する．
後期：中国経済における直接投資のインパクトについて概括的な説明を行う．

[成績評価の方法]

評価は出席、レポートをもって行う．

[教科書]

内藤　昭「中国の市場経済化と日中経済競争」（学文社）とプリントを併用する．

[参考文献]

適宜指定する．

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学特講（インターンシップ）		集中コース	2単位	庄　谷　邦　幸

[講義概要・学習目標]

インターンシップとは、学生が在学中に企業等において研修的な就業体験するプログラムであり、大学教育と社会における実地の経験を結びつけることによって、教育の効果を一層あげることを目的としている。
尚、当科目については、3月下旬に実施される応募・選考の手続きをしていない場合には、履修登録ができないので注意すること。

[講義計画]

（プログラムの概要）

「事前研修」
(1) プログラムのガイダンス
(2) 研修企業・団体等の事前学習
(3) ビジネスマナーの指導
(4) 研修要領の説明と報告書の作成指導

「研修期間」
夏期休暇中（60時間以上2週間の予定）

「事後研修」
研修結果の報告

[成績評価の方法]

事前研修，事後研修，研修先からの評価，研修報告書などを含めて総合的に評価する。

[教科書]

[参考文献]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済学特講 （現代日本産業論）		通期	4単位	富澤修身

［講義概要・学習目標］

現代の日本産業は、米国の基準とアジア、特に中国の基準が押し寄せるなかで、日本の基準のあり方を模索している。一言でいえば、構造調整の渦中にある。この過程で、大企業と中小零細企業の関係の変化、中央集権から地方分権への行政の流れ、日本的労使慣行の変化など大きな変更が利害対立を伴いつつ進行している。

講義では、基礎理論を踏まえつつ、構造調整の内容について企業、産業、産業構造の点から論じる。

［講義計画］

序章
　1　分析方法
　2　諸問題
第1編　大競争下の産業、企業、産業構造
　Ⅰ　産業組織の変化
　Ⅱ　工業企業の特徴と矛盾
　Ⅲ　変化する産業構造
第2編　大競争時代の日本産業の構造調整

［成績評価の方法］

定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。

［参考文献］

なし

［教科書］

富澤修身著『構造調整の産業分析』（創風社）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
簿記	01 02	通期 通期	4単位 4単位	近藤健司

［講義概要・学習目標］

企業は、複式簿記の原理を使って、日々の取引を記録・計算・整理し、その結果作成される財務諸表を通じて、自らの財政状態と経営成績を把握する。また、債権者・株主・税務当局などに必要な会計情報を伝達する。

本講義では、初めて簿記を学習する学生を対象として初級の商業簿記を講義する。学習内容は、複式簿記の計算原理・計算構造の理解、仕訳の習熟、財務諸表の計算練習、帳簿の合理的な付け方の4点である。

授業に当たっては、簿記の基本的な仕組み理解と計算技術の習得という理論と計算の両面にわたる故に、毎時間、説明とともに、練習問題を多数課して、つとめて実践的に行いたい。積み重ねが必要な科目であるので、極力休まないように努力してほしい。

［講義計画］

＜前期＞Ⅰ　複式簿記の計算原理
　（資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、財産計算と損益計算の統合）
　Ⅱ　複式簿記の計算構造
　（取引・勘定・仕訳、仕訳帳・元帳、試算表・決算Ⅰ）
　Ⅲ　勘定科目各論
　（現金・預金、仕入・売上、売掛金・買掛金）
＜後期＞Ⅳ　勘定科目各論
　（受取手形・支払手形、その他の勘定科目）
　Ⅴ　決算Ⅱ
　（決算整理、8桁精算表、財務諸表［損益計算書、貸借対照表］）
　Ⅵ　帳簿組織
　（伝票会計制度―三伝票制、五伝票制）

［成績評価の方法］

前後期各1回の筆記試験の成績に、課題の提出、出席状況を加味して総合評価する。なお、本年度中に日本商工会議所簿記検定試験3級以上に合格した者には、別途加点評価する。

［参考文献］

新井清光・渡部裕亘編著　「新検定簿記ワークブック3級」
（中央経済社）

［教科書］

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）「現代簿記論」（中央経済社）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
民法概論		通　期	４単位	林　錫 璋

［講義概要・学習目標］

ある程度の法学的素養というか民法の知識を必要とすると思われる学生のために、民法の全五編について概説する。

講義は、民法の最少必要限の知識を、重点項目において講述し、民法全般について理解ができるように努めたい。

［講義計画］

１，民法の基本原則
２，権利能力と行為能力
３，法律行為の意義及び性質
４，代理制度
５，無効と取消
６，時効制度
７，物権とその働き
８，公示の原則と公信の原則
９，占有権
１０，所有権
１１，用益物権
１２，債権の発生原因
１３，債権の効力
１４，債権の移動と債権の消滅
１５，債権の担保
１６，契約
１７，売買
１８，消費貸借と賃貸借
１９，不法行為
２０，家族と家族法
２１，夫婦
２２，親子と扶養
２３，相続人と相続分
２４，遺産と遺留分

［成績評価の方法］

年度末試験を重視し、リポート・出席状況を加味して総合評価する。

［教科書］

中川　淳ほか著『 新はじめての民法』（法律文化社）
平井　宜雄ほか（編）『 ポケット 六法 』（有斐閣）

［参考文献］

谷口知平・甲斐道太郎（編）『新版 現代民法入門』（法律文化社）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商法概論		通　期	４単位	吉　見　研　次

［講義概要・学習目標］

この講義では、商法全般の基礎的な知識を講述する。商法の分野ごとの詳細な内容については別に「商法Ⅰ」「商法Ⅱ」が開講されているので、本講義では商法全体の基本的なしくみを解説する。ただ、時間の制約上、商法のうち主に株式会社法と手形・小切手法を取り上げることとなろう。商法は法律学のなかでも特に技術的な要素が大きいので、受講者には商法学を学ぼうとする強い意欲が要求される。

なお毎授業時に『六法』を携帯すること。私語も遅刻も厳禁。その他受講時の留意事項につき、最初の授業の際に言及する。

［講義計画］

Ⅰ　商法の概観

Ⅱ　会社法　⑴会社の性質・種類　⑵株式会社　①設立　②法人成り　③株主　④株式の譲渡　⑤株主総会　⑥総会決議　⑦取締役　⑧取締役の責任　⑨監査役　⑩新株発行と社債　⑪計算　⑫基礎的変更

Ⅲ　手形法・小切手法　⑴約束手形　①振出　②振出時のトラブル　③裏書　④善意者保護　⑤流通時のトラブル　⑥支払・不渡等　⑵為替手形　⑶小切手　①振出等　②線引小切手

Ⅳ　商法総則・商行為法　①総則　②商行為法

［成績評価の方法］

正誤文選択等の短答式の学年末テストを予定している。

［教科書］

平井宜雄他編『ポケット六法　平成１３年版』（有斐閣）

［参考文献］

岩崎稜他『セミナー商法』（日本評論社）
田村淳之輔他編『目で見る商法教材　第２版』（有斐閣）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
憲法		通　期	４単位	前田　徹生

［講義概要・学習目標］

Ａ子さんは学校の方針に反して私服通学を続けていたことから、内申書の総合所見欄にどう書かれているのか関心があった。公立高校への受験を控えたＡ子さんはＢ市の個人情報保護条例に基づいて開示請求を求めたが、Ｂ市側はこれを拒否する決定を下した。Ａさんは決定の取り消しを求めて裁判所に訴えた。さて、君が裁判長であったら、どういう判断を下すだろうか。

憲法学（法学）を学ぶことの意義は「リーガル・マインド」を養うことにある。それはこうした対立する諸利益や価値とを比較衡量し、法に則りながら一定の結論を導き出す論理的思考能力を養うことにある。

［講義計画］

１）日本国憲法成立史
２）基本的人権の享有主体
３）基本的人権の私人間効力
４）法の下の平等
５）個人の尊重と幸福追求権
６）信教の自由・政教分離の原則
７）学問の自由
８）表現の自由
９）職業選択の自由
１０）被疑者・被告人の権利
１１）生存権
１３）労働基本権
１４）第九条の起源
１５）平和主義
１６）安保体制
１７）国会の地位と権能
１８）内閣制度とその権限
１９）裁判所の組織と権限
２０）違憲審査制
２１）憲法訴訟
２２）地方自治

［成績評価の方法］

前期・後期の２回の試験および時々の出席点で判断する。

［教科書］

中谷実編『ハイブリッド憲法』勁草書房

［参考文献］

佐藤　功『日本国憲法概説』（全訂第五版）学陽書房
樋口陽一『憲法入門』勁草書房
芦部信喜『憲法』岩波書店
佐藤幸治『憲法』（第三版）青林書院

＜編入生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学入門（編入生用）		通　期	４単位	蕗　谷　硯　児

［講義概要・学習目標］

1990年代の日本経済は平成バブル崩壊後の長期不況に苦しめられてきたが、そこから脱出するための構造改革はいまだに遅々として進まない。

そこから脱出の策として唱えられているのは、旧来の日本型経済システムの全面否定、すなわち徹底的な規制緩和、自由化、情報開示、等々であるが、それを一言で要約すれば「市場主義」の徹底ということになる。本講義では日本型システムと今やグローバル・スタンダードとされるアメリカ型システムとの比較を行ない、「日本型システムのアメリカ化はどこまで必要か」について問題提起し、考察を進める予定である。そして真の日本経済再生の策は何かについていくつかのヒントを獲得することを目標とする。

［講義計画］

前期ではバブル崩壊後の平成不況の実態とその長期化の原因について講義する。さらにその克服策としての構造改革、その目標とされる徹底的な市場主義について主として教科書の順序に従って講義を行なう。

後期では日本型システムの改革の理念、およびその具体策について先進諸国の事例を参照しながら講義を行なう。

［成績評価の方法］

出席状況、提出レポートの内容、期末筆記試験の成績等を総合的に評価して判定する。

［教科書］

佐和隆光著『市場主義の終焉』　岩波新書
―日本経済をどうするのか―　¥660＋税

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
労働経済論		通　期	4 単位	小　川　登

[講義概要・学習目標]

皆さんは、卒業後、労働力商品（生涯賃金は約３億円）を売りつづけ、それで生活する賃金労働者になる。３億円もする商品を、品質向上・努力なしで売ろうというのは無理なこと。
前期は小川本で、就職差別、反差別の経済学、労働組合の必要性等々を講義したい。本の中味の多くは、アムリカ合衆国の労働運動理論である。
後期は小池本で。名著の小池和男『仕事の経済学』で、労働経済学全般、とくに熟練の形成について勉強していく。
ほかの商品（たとえば服）には心はないが、労働力商品は「生きた赤いハートをもった商品」である。この商品の特殊性を理解してくれれば、学習目標は達成できるのではないか。

[講義計画]

（前期）小川　登『労働組合の思想』を中心に講義する。

（後期）小池和男教授の名著『仕事の経済学』を中心に講義する。キイとなる概念は知的熟練と長期の競争である。

[成績評価の方法]

学年末試験。ただ、下記の２冊の教科書は必ず買うこと。

[教科書]

小川　登（著）「労働組合の思想」（日本評論社）
小池和男（著）「仕事の経済学」（東洋経済新報社）

[参考文献]

小川　登（著）「労働経済論の基本問題」（ミネルヴァ書房）
隅谷三喜男（著）「労働経済論」（筑摩書房）
島田晴雄（著）「労働経済論」（岩波書店）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地方財政論		通期	４単位	竹　原　憲　雄

[講義概要・学習目標]
わが国の都市財政のしくみ・特徴・課題について検討する。
現代は都市の時代といわれるなかにあって、戦後わが国の都市は先進国のなかでも希な急膨張をとげてきたが、１９９０年代からの日本経済の低迷のなかで、いま大きな曲がり角に立たされている。さらには、２０００年４月の「地方分権法」によって、都市行財政そのものも見直しを迫られている。巨大な都市経済・都市行財政の行方が注目されている。
だから、都市財政の実態を明らかにすることは、２１世紀のわが国の経済社会を知るうえでの焦点の１つになっている。またそれは、これからの国際化・高齢化・分権化における市民生活を考えるうえでの重要な課題でもある。
なお、付論として、大都市圏に組み込まれている地元和泉市の財政分析も考えている。

[講義計画]
1．都市財政の現状
2．「地方分権法」の検討
3．都市の財政需要
4．都市の財政収入
5．都市税制
6．都市財政と財政調整制度
7．国庫補助金と都市財政
8．地方債と都市財政
9．和泉市財政の現状

[成績評価の方法]
出欠状況、講義内容に関するレポートの提出、期末の試験により総合評価する。

[教科書]
使用しない。

[参考文献]
講義の中で紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済開発論		前期集中	４単位	望　月　和　彦

［講義概要・学習目標］

テーマ：経済発展の光と影

現在の私たちのライフスタイルが形成されたのは、さほど遠い昔ではない。世紀の変わり目に始まった第二次産業革命がその契機となった。生産力の発展は、私たちに豊かな社会をもたらし、社会の民主化に貢献した。だがこの経済発展は、私たちによいものばかりをもたらしたわけではない。物質的な豊かさは、必ずしも人間に幸福をもたらさず、自由すら人間にとって重荷となった。ファシズムや共産主義を含む全体主義体制はこの第二次産業革命の落とし子といえるのである。いやむしろ大衆民主主義こそが全体主義をもたらしたとさえ言える。

本講では、経済発展のもたらした光と影に着目する。過去の経済発展がもたらしたものは、豊かな社会と全体主義であった。他方、今日の経済発展がもたらしたものは、人口と環境への圧力であるといわれる。これらの現象が明日の地球に何をもたらすのだろうか。それは破滅なのか、永続する繁栄なのか。

さらに、人類はこのまま進歩し続けるのだろうか。それとも進歩は止まるべきなのだろうか。もはや全体主義は克服されたのだろうか、それとも全体主義の危険は未だ残っていると考えた方がよいのだろうか。物質的な享楽の上に形作られたわが国の戦後民主主義体制に待つものは何か。これまで人々を誤り導いてきた終末論と弁証法的闘争観は克服されうるのか。

本講では、経済発展のもたらすこれらの諸問題について、経済学だけではなく、社会学、政治学、哲学など多面的なアプローチで考えていくことにする。

右に掲げてあるシラバスはあくまでも前年度の内容であり、今年度は若干変更される可能性もある。詳しくは、受講前に私のホームページ（桃山学院大学のホームページの中の経済学部の教員紹介のところにある）で確認すること。

［講義計画］

【前期】
第一部　経済発展の歴史的意義
第１章　成長と停滞　どちらが当たり前？
第２章　進歩思想vs終末思想
第３章　産業革命の意義
第４章　第一次世界大戦
第５章　大量生産方式の成立
第二部　わが国における現代社会の成り立ち
第１章　現代のライフスタイルの成立
第２章　昭和金融恐慌
【後期】
第３章　日本的システムの源流としての国家総動員体制
第４章　日米戦の歴史的意義
第５章　米国による日本占領の意義
第三部　環境問題と成長の限界
第１章　現代の終末思想としての環境問題
第２章　今日の環境問題とその批判
第３章　成長の限界
第４章　doomsdayers vs cornucopian
　　成長の限界に対する批判
第四部　経済発展の要因
第１章　経済発展の要因についてのこれまでの議論
第２章　経済発展の要因としての秩序
第３章　秩序の源泉
第４章　まとめ

［成績評価の方法］　期末試験の成績のみによって評価する。

［教科書］　望月和彦　『論考経済開発論』

［参考文献］
最初の講義の際に配布する受講生用シラバス（講義計画）で指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
公共経済論		通　期	４単位	竹　歳　一　紀

［講義概要・学習目標］

公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、一口で言えば、市場経済において公共部門の介入が必要となる諸問題を経済理論により分析することである。すなわち、公共部門（政府）の介入が必要となるのはどのような問題に対してであるか、また、適切な介入（政策）とはどういったものか、といったことについて示すことが重要な課題となる。

この講義では、①公共財と公共投資、②外部性と環境問題、③所得分配と社会保障、といったテーマをとりあげる予定である。

公共経済学を理解するためには、主としてミクロ経済学の知識が必要となる。講義でも適宜説明を加えるが、経済原論ＩＡ－１を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。

［講義計画］

前期
１．公共経済学の対象
２．厚生経済学の基礎
３．公共財と公共投資

後期
４．外部性と環境問題
５．所得分配と社会保障

［成績評価の方法］

学年末試験の成績による

［教科書］

特に指定しない

［参考文献］

講義中に指示する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
環境経済論		通　期	4単位	浦　出　俊　和

［講義概要・学習目標］

ブラジルでの地球サミットの開催や、京都での地球温暖化防止京都会議など、地球環境問題への関心が高まっている。環境庁は、この地球環境問題を、1)オゾン層の破壊、2)地球の温暖化、3)酸性雨、4)熱帯雨林の減少、5)砂漠化、6)開発途上国の公害問題、7)野生生物種の減少、8)海洋汚染、9)有害廃棄物の越境移動、の９つに分類している。これらの環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものであり、従来の市場メカニズムなじまない、あるいはボーダーレスであるという特質ゆえに、解決が困難であるとされてきている。しかし、環境問題に対する経済学の役割は重要である。

そこで、本講義では、ミクロ経済学や公共経済学を援用しつつ、環境問題に対して経済学的にアプローチをするとともに、環境政策における有効な経済的手段について検討を行う予定である。

［講義計画］

＜前期＞
- 環境問題と経済学
- ゴミ問題と経済学
- 市場均衡と社会的総余剰
- 環境資源の特性
- 外部性

＜後期＞
- 外部性の内部化の理論
- 環境政策にける経済的手段
- ＰＰＰの原則
- 非枯渇性資源の経済的最適管理
- 共有資源とゲーム論
- 環境価値の経済評価

［成績評価の方法］
学年末試験の成績による。

［教科書］
特に指定しない。

［参考文献］
植田和弘（著）『環境経済学』（岩波書店）
赤尾健一（著）『地球環境と環境経済学』（成文堂）
P.-O.ヨハンソン（著）『環境評価の経済学』（多賀出版）
ポール・W・バークレイ、デビット・W・セクラー（著）『環境経済学入門』（東京大学出版会）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
中小企業論		通　期	4 単位	庄　谷　邦　幸

［講義概要・学習目標］

21世紀を迎え日本の中小企業のあり方，中小企業政策が大きく転換しつつある．中小企業全体の底上げ政策からベンチャー企業育成へ転換している。それらの社会的，経済的背景も分析したい。
規制緩和，IT革命の影響，グローバル化の影響，伝統産業，地場産業のすき間る道についても考察したい。

［講義計画］

1. 経済発展と中小企業
2. 国民経済と中小企業
3. 産業組織と中小企業
4. 中小企業の経営問題
5. 中小企業の金融問題
6. 中小企業の労働問題
7. 技術開発と中小企業
8. 情報ネットワークと中小企業
9. 流通構造の変革と中小企業
10. サービス経済化と中小企業
11. 地域コミュニティと中小企業
12. 国際化と中小企業
13. 中小企業と組織化
14. 中小企業政策の課題

［成績評価の方法］

レポートを時々書いてもらう。
学年末試験の評価とレポートを総合化する。

［教科書］

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地域経済論		通　期	４単位	芝　村　篤　樹

［講義概要・学習目標］

日本近代都市の形成と展開について、戦後の高度経済成長期までたどる。そして、現代都市の諸問題を考えたい。その際に、主な対象となるのは大阪である。講義室を友人の交流・団欒の場と心得る諸君の入室を厳禁する。つまり、私語は禁止である。

［講義計画］

１．日本近代都市の形成
２．１９２０・３０年代の都市
３．都市における戦前と戦後
４．高度経済成長期の都市
５．現代都市の課題

［成績評価の方法］

夏休みレポート、講義時の小レポート、期末試験。期末試験の比重は７０％程度

［参考文献］

必要に応じて指示する。

［教科書］

芝村篤樹 著『都市の近代・大阪の２０世紀』（思文閣出版）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地域政策論		通　期	4 単位	寺　中　直　人

［講義概要・学習目標］

この講義では、地域政策の中でも特に大都市地域における土地・住宅問題を経済学的に考える。これらの問題は、従来、建築学や生活科学の分野で、住居の物的な構造や住い方の問題として扱われてきた。しかし、上記のようなアプローチだけでは、これらの問題を生み出す土地・住宅市場の性質、市場に影響を与える税制のあり方、また問題の解決に向けて「公共」や「民間」の役割はどうあるべきかというようなことがらに、適切な答えを与えることはできない。

そこで、経済学ではこのような問題をどのように分析するのか、また、分析するためにの道具は何かをまず紹介する。そして、地価は必ず上がるという「土地神話」が崩壊した今、土地・住宅問題を解決するための地域政策のあり方を検討する。

履修者は、経済学理論の初歩的知識を持っていることが望ましいが、まったく知らない人でも理解できるように、時間が許す限り基礎的なことがら（数学的知識も含めて）を復習しつつ、講義を進めるつもりである。ただし、講義に対する「熱意」は不可欠である。

［講義計画］

＜前期＞
1．オリエンテーリング
2．土地・住宅問題の現状
3．歴史１－高度成長期まで
4．歴史２－70年代からバブルの時代
5．歴史３－バブルの時代以降
6．地価とは何か
7．地価の決定式
8．付け値地代曲線
9．小テスト１
10．小テストの解説
11．資産市場の分析（１）
12．資産市場の分析（２）

＜後期＞
1．わが国の土地・住宅税制
2．土地保有税の効果
3．キャピタルゲイン税の効果
4．土地規制・建築規制
5．小テスト２
6．小テストの解説
7．わが国の住宅政策
8．家賃規制
9．公共賃貸住宅政策
10．持ち家助成策
11．家賃補助と所得補助
12．まとめ

［成績評価の方法］

学年末試験の成績を最終的な評価とするが、１、２回小テストを行う予定である。詳細については授業の中で説明するので、最初と最終講義は、必ず出席しなさい。

［参考文献］

本間義人『住宅－産業の昭和社会史５』（日本経済新聞社、1987年）
宇沢弘文・堀内行蔵編『最適都市を考える』（東京大学出版会、1992年）
宮尾尊徳『現代都市経済学』（日本評論社、1995年）
岩田規久男・八田達夫編『住宅の経済学』（日本経済新聞社、1997年）
金本良嗣『都市経済学』（東洋経済新報社、1997年）
伊豆宏編『変貌する住宅市場と住宅政策』（東洋経済新報社、1999年）

［教科書］

玉井金五・大森真紀編『社会政策を学ぶ人のために』（世界思想社、1997年）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
農業経済論		通　期	4単位	浦　出　俊　和

［講義概要・学習目標］

近年、我が国の農業を取り巻く状況は、大きく変化してきていると同時に、農業が抱える問題は複雑化している。もちろん、我が国の農業を考える場合、世界の農業の展開も無視できない。つまり、農業問題をとらえるためには、農業のもつ特質、農業の実態、世界の農業情勢を把握することが必要となる。

本講義では、まず、これら実態に関する知識を深めることから始め、その上で、経済学、特に、ミクロ経済学の理論を用いて、様々な農業に関する経済現象を分析していく予定である。

本講義が目標とすることは、各自が農業の抱える問題を正しく認識し、その将来方向について自分の考えを述べることが出来るようになることである。

［講義計画］

<前期>
- 世界における農業問題
- 経済発展と農業の特質
- 日本経済における農業
- 農業生産の理論

<後期>
- 農産物の価格形成
- 日本の農業構造
- 日本の農業政策
- 農産物の流通
- 世界の人口と食糧問題

［成績評価の方法］
学年末試験の成績による。

［教科書］
特に指定しない。

［参考文献］
荏開津典生（著）『農業経済学』（岩波書店）
土屋圭造（著）『農業経済学』（東洋経済新報社）
庄源寺・谷口・藤田・森・八木（著）『農業経済学』（東京大学出版会）
堀田忠夫（編著）『国際競争下の農業・農村革新』（農林統計協会）

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
産業構造論		通　期	4単位	庄　谷　邦　幸

［講義概要・学習目標］

日本産業の当面する諸問題について，各産業で活躍している第一線のエコノミストに最新の資料（情報）にもとずいて講義をしてもらう。

［講義計画］

［成績評価の方法］
1年間を4期に区分し，各期最低1つのテーマについて各講師が当面したテーマについてレポートを作成してもらう。それらを総合して評価する。

［教科書］
桃山学院大学編『産業構造論　資料集』(I,II)

［参考文献］
その都度指示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
銀行論		通　期	４単位	津田　和夫

［講義概要・学習目標］

銀行に関する数多くの問題を、戦後の歴史を振り返りながら様々な視角から研究し、現代の金融ビッグバンの理解を深める。

研究対象は銀行の基本機能、金融システムの戦後史、金融政策、証券業との関係、公的金融との関係、等が基本になるが、膨大な不良債権、低金利政策の問題点、保護行政の破綻、預金者保護等、国民生活に重大な影響がある課題も集中的に採り上げる。

改正日銀法が施行され、金融行政が衣替えし、外国為替管理法が改正（原則的な規制撤廃）され、銀行による投資信託の販売が開始され、証券会社との垣根が低くなり、さらに金融持株会社やｲﾝﾀｰﾈｯﾄ銀行構想が実現の方向にある。こうした環境下金融再編が早いｽﾋﾟｰﾄﾞで進行中である。
そこで、時事問題も随時採り上げながら、論点の基本を金融資源の適正配分に置き、常時批判と改革の方向を探る。

［講義計画］

＜前期＞ 教科書１章から３章まで

＜後期＞ 教科書４章から６章まで

［成績評価の方法］

期末試験、出席状況、中間レポート（随時実施）

［教科書］

津田　和夫（著）「改訂・現代銀行論入門」（経済法令研究会）1999年版

［参考文献］

津田和夫（著）「巨大銀行の構造」（講談社・現代親書）
日本銀行・金融経済研究所（編）「我が国の金融制度」（日本信用調査）
鈴木淑夫・岡部光明（著）「実践ゼミナール日本の金融」（東洋経済新報社）
高木仁、高月昭年著「入門、日本の金融機関」東洋経済新報社、2000年4月
津田和夫著、日本の金融制度と銀行経営、桃山学院大学総合研究紀要 24巻3号1999年3月
津田和夫著、抵当証券をめぐる諸問題、桃山学院大学総合研究所紀要 25巻１号、1999年９月

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
都市政策論		通　期	４単位	中村　征之

［講義概要・学習目標］

「都市は文明の容器である」という。それは人間の創造物であり、政治的、社会的、経済的な実に様々なシステムを備えている。しかし、単に生産と消費の場であることだけに、とどまている訳ではない。それは「器」の中で展開される多種多様な活動を総合・調整する公的な行為としての都市政策の存在を欠いては存在しない。すなわち、都市の諸システムを管理する市民の「自治の営み」の場でもあるのだ。講義ではまず、そのような都市政策の諸機能を、市民の「共和的なもの」を実現する自治の構造の中から、論理的に把握することを求める。続いて、資本主義体制下における都市問題の発生構造に目を向け、その解決を図る「都市型政治」の足取りをたどり、今日的課題である地方自治の理解を深める。

［講義計画］

学生自身が自分の生活の場である空間に目を向け「都市とは何か」と、まず問を発し、そこから自らの課題を引き出し、その理解に向かう「論理」を用意する手助けをしたい。

［成績評価の方法］

前、後期の定期テスト、レポートをもって判断する。

［教科書］

・「都市の政治学」加茂利男（自治体研究社）

［参考文献］

・「都市の類型学」マックス・ウェーバー（創元社）
・「都市の文化」ルイス・マンフォード（鹿島出版会）
・「都市政策の思想と現実」宮本憲一（筑摩書房）
・「近代の政治思想」福田歓一（岩波新書）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商法Ⅰ	０１	通　期	４単位	牛丸　與志夫

［講義概要・学習目標］

会社のうち、特に、株式会社の法規制を講義する。株式会社の設立、株式、運営機構、計算、資金調達および基礎的変更についての規制を講義する。

［講義計画］

前期に、設立、株式まで、講義を行う。後期に、残りの部分を行う。練習問題を解きながら、講義を進める。

［成績評価の方法］

試験

［教科書］

1，酒巻他５名著『テキストブック会社法（最新版）』
有斐閣ブックス（有斐閣）
2，『ポケット六法』（有斐閣）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商法Ⅰ	０２	通　期	４単位	吉見研次

［講義概要・学習目標］

この講義では、商法のうち会社法について講述する。『商法概論』でも会社法の基本的なしくみを説明しているが、本講義ではより詳細に会社法の諸問題を解明していきたい。最高裁判例も特に重要なものは紹介検討するつもりである。それだけに多少とも難解な内容になることは避けられないが、学習意欲の強い学生諸君の受講を期待したい。

なお毎授業時に『六法』を携帯すること。私語も遅刻も厳禁。教科書、参考文献の使用法については１回目の授業の際に言及するので、購入はその話を聞いてからにすること。その他受講時の留意事項につき、最初の授業時に述べる予定である。

［講義計画］

Ⅰ　会社法総論　(1)会社の性質　(2)会社の種類　(3)法人成り

Ⅱ　株式会社法　(1)設立（設立手続、発起人、設立の瑕疵）　(2)株式（株主の権利義務、株式譲渡、株式取得の制限）　(3)株主総会（総会決議、総会の活性化、決議の瑕疵）　(4)取締役・取締役会（取締役、取締役会・代表取締役、取締役の義務、取締役の責任）　(5)監査役・会計監査人　(6)資金調達（新株発行、社債）　(7)計算（計算書類、資本・法定準備金、利益配当）　(8)基礎的変更（合併・営業譲渡、その他の変更）

Ⅲ　その他の会社法　(1)有限会社法　(2)合名会社法　(3)合資会社法

［成績評価の方法］

学年末テストを実施するが、正誤文選択等の短答式にするか、論述式にするかは未定である（できるだけ早く決定し、授業時間中に公表する）。

［教科書］

岩崎稜他『セミナー商法』（日本評論社）

［参考文献］

平井宜雄他編『ポケット六法　平成１３年版』（有斐閣）
田村淳之輔他編『目で見る商法教材　第２版』（有斐閣）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済法		通　期	4単位	牛丸　與志夫

［講義概要・学習目標］

経済法の内、特に独占禁止法についての基礎的な知識の修得をめざす。講義の主要な項目は、独占禁止法の目的、私的独占の禁止、企業結合の制限、不当な取引制限の禁止、独占禁止法の実効性の担保、公正取引委員会、事業者団体の活動規制、国際カルテルへの参加禁止、価格の同調的引き上げ、不公正な取引方法の規制等である。

［講義計画］

前期で、独占禁止法の目的、私的独占の禁止、企業結合の制限、不当な取引制限の禁止、独占禁止法の実効性の担保及び公正取引委員会を考察する。後期で、事業者団体の活動規制、国際カルテルへの参加禁止、価格の同調的引き上げ及び不公正な取引方法の規制等を講義する。講義では、主要な審決・判例を分析・考察しながら、進めていく。

［成績評価の方法］

試験

［教科書］

1，根岸哲・杉浦一郎著『経済法（第2版）』（法律文化社）
2，今村成和・厚谷襄編『独禁法審決・判例百選〔第5版〕別冊ジュリスト』（有斐閣）
3，『ポケット六法』（有斐閣）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
比較経済体制論		後期集中	4単位	上野　勝男

［講義概要・学習目標］

「ソ連（ロシア）経済はどんなもの？」ときかれたら、少し勉強した諸君ならば次のように答えるだろうか。つまり、旧ソ連では企業活動の自由がなく、命令でがんじがらめに縛られ、消費者は選択の余地もなく、また商品はいつも不足していた。こうした「社会主義的計画経済」が行き詰まったために崩壊して、いまでは「体制転換」といわれて、西側と同じような「市場経済」＝資本主義のシステムへ移行しつつある最中だ、と。

たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのはわかりやすい。でも、長引く不況、数々の大企業のスキャンダル、倒産、金融不安という状況にあるわたしたちの国日本も「市場経済」＝資本主義だということを思うと、少し考え込んでしまう。こんな矛盾だらけの資本主義が永遠に続くシステムなのか？。それに、社会主義とは本来資本主義の矛盾を克服する体制だったはずなのでは？、ソ連は本当に社会主義だったのか、崩壊したのは本当に「社会主義」体制のためだったのか？等々。この講義では、こうした疑問をじっくり考えることを目標として、①旧ソ連の経済体制をどう考えるか、②社会主義とは本来どのようなものか、③わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつのか、④ロシア・東欧諸国で進行する「体制転換」をどう考えるかをポイントにしてすすめます。

［講義計画］

序　論　「比較経済体制論」とは？
第Ⅰ部　社会主義とは何か？
　1．資本主義の基本矛盾
　2．現代資本主義と民主主義
　3．社会主義的将来の本質と発展
第Ⅱ部　ソ連経済史概説－「社会主義経済」だったのか？－
　4．十月革命
　5．ネップ（新経済政策）の試み
　6．大転換とソ連型経済制度の成立
　7．ソ連経済の構造と矛盾
　8．経済改革から「体制転換」へ
第Ⅲ部　「体制転換」の虚像と実態
　9．ロシアにおける「体制転換」
　10．未来はどこに

［成績評価の方法］

資料プリントを頻繁に配布します。また、後期集中なので、講義への出席をとくに重視します。試験・レポートなどとあわせて、総合的に成績を評価します。講義の進め方・評価方法を知る上で、第1回目の講義は必ず出席してください。

［教科書］

使用しません。しかし、右に示した重要な参考文献とともに、随時参考にすべき文献は指示します。

［参考文献］

E.T.ガイダール（上野ほか訳）『経済改革とヒエラルキー構造』（晃洋書房）
浅羽・瀧澤編著『世界経済の興亡200年』（東洋経済新報社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際金融論		通期	4 単位	一ノ瀬　篤

［講義概要・学習目標］

以下の順序及び内容で講義を進める。

（1）国際金融とは何か

（2）国際通貨と国際通貨体制

①金本位制度　②ブレトン・ウッズ体制

③変動相場制

（3）外国為替相場と外為市場

（4）国際収支と国際金融

①経常収支と国際金融

②資本収支と国際金融

（5）変動相場制と為替政策

外為取引、為替相場変動、国際投資など国際金融に関する基本的知識を身につけることを目標とする。とくに関係業務に就いた際や日常生活で役立つように制度や統計の見方など現実的な観点を大事にしたい。

［講義計画など］

ほぼ毎回、講義レジメを配布して、これに基づいて説明する。３章末までを前期に終了したい。

いかに分かりやすく説明しようとしても、国際金融の現実自体がこみ入っている。受講者には、教科書として指定した書物（最も平易に書かれている）や参考文献として掲げた書物（教科書風だが、程度は高い）などによって、予習や復習に心がけて頂くよう求めたい。理解度が倍増する。

抽象的理論以上に、制度や実務、歴史などにかんする知識の蓄積が重要な分野なので、勉強のし甲斐もあるし、努力に正比例して、目標達成感も得やすいだろう。大学時代に、専門的知識を身につけよう！

［成績評価の方法］

短答形式で中間試験を行い、これと期末試験（論文式）の結果を等分に評価する。

［教科書］

秦忠夫・本田敬吉『国際金融のしくみ』（有斐閣、1996年）

［参考文献］

上川孝夫・藤田誠一・向寿一編『現代国際金融論』（有斐閣、1999年）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際経済論		通　期	4 単位	三　邉　信　夫

［講義概要・学習目標］

この講義では、国際経済学の基礎理論を解説する。国際経済学は、国際間における取引（trade）つまり貿易に関する事柄を研究対象としている。取引である限り最低2つの国（または2人）および2つの財貨の存在が必要である。貿易は両国間の効用関数の差異（つまり両国民の間の趣好の差異）があれば行われるが、その財貨が生産物である場合、生産関数が問題となる。財貨を生産する技術や生産要素、つまり労働や資本の要素賦存量の国際的差異を考えに入れなくてはならない。価値または価格という場合も生産物間の交換比率だけではなく、生産要素間の交換比率つまり要素価値比率（または分配率）および両者の間の関係が考慮されねばならない。さらにこれらの基礎的条件が変化した場合、具体的には、技術進歩や資本蓄積、労働人口の増加が行われたとき、交易条件やその国の生活水準に及ぼす影響なども分析される。

［講義計画］

〈前期〉1. リカード比較生産費説と賃金決定
2. 商品交易条件と要素交易条件
3. 交換経済、オファー曲線、貿易利益
4. 均衡の安定性、マーシャル・ラーナーの安定条件
5. 生産論、等生産量曲線と生産可能曲線
6. 貿易方向の決定、ヘクシャー・オリーン理論、国の規模、技術進歩

〈後期〉7. 要素価格均等化、リプチンスキィ効果、ストルパー・サムエルソン理論
8. 国際貿易における双対関係
9. 比較生産費基準と所得弾力性基準
10. 経済成長と交易条件

［成績評価の方法］

試験、出席

［教科書］

三邉信夫（著）「国際貿易と経済成長理論」（大阪市立大学経済学会）

［参考文献］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
アジア経済論		通　期	4単位	厳　善　平

［講義概要・学習目標］

数年前、「21世紀はアジアの時代」という喧伝は日本では盛んであった。しかし、そのアジアは、タイのバーツが下落した1997年7月以降、深刻な通貨・金融危機に見舞われた。一時期、アジア経済の過去が幻のものだという批判は人々の関心を集めたが、1998年後半から、危機に陥ったアジアの国々は経済の再建に着手し、非常に短い間に経済の回復を実現し、再び世界経済の成長を牽引するようになりつつある。

アジア経済の成長がいったい何によりもたらされたのか、今回の経済危機はどうして生じたか、今後のアジア経済の可能性は如何なるものであろうか。本講義では、東アジアと東南アジア各国の経済成長と構造変化、経済的な相互依存関係の現状、形成過程と問題点などについて、開発経済学の理論的枠組みに即しながら、分かりやすく解説する。

なお、国別のことをより詳しく知りたい場合は、「中国経済論」などの受講を薦める。

［講義計画］

一．西太平洋地域経済のパフォーマンス
　1．東アジア、東南アジア経済の過去といま
　2．西太平洋地域における雁型経済発展のメカニズム
　3．西太平洋地域における経済の成長と構造変化と相互依存
　4．アジア経済の未来をどう見るべきか
二．アジア経済の捉え方
　1．経済開発の基本的課題　－－発展の目的は何か
　2．伝統産業＝農業と近代産業＝工業　――工業化戦略のあるべき姿
　3．経済開発と援助・貿易・投資　――先進国の役割とは
　4．後発国における経済開発と政府の役割　――開発独裁が必要悪か
　5．経済開発はすでに限界に達したか　――環境制約はどうすべきか

［成績評価の方法］

前期レポート＋期末試験

［教科書］

渡辺利夫他『図説・アジア経済論（第2版）』日本評論社，2200円
（生協にて一括購入し販売する）

［参考文献］

講義中、関連する最新の資料を配布する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
アメリカ経済論（旧欧米経済論）		通　期	4単位	中　本　悟

［講義概要・学習目標］

本講義は、現代アメリカ経済の構造と発展について、いくつかの領域に分けて講義する。アメリカ経済において生じたことは、遅かれ早かれ日本においても生じてきた。

しかし、アメリカで生じたことが同じ形で日本やアジアで生じているわけではない。アメリカにはアメリカ固有のイデオロギー、行政機構、経済法、経済制度があり、日本やヨーロッパとは異なった形態で問題が生じ、したがってまた異なった解決がなされることが多い。この意味では、こんにちの主流派の経済理論がアメリカ経済を土台として書かれており、日本ならびにアジア経済の研究を土台に経済理論の創造的発展が求められていることも、本講義を通じて理解できよう。

本講義では、それぞれの主題について、問題の構造と歴史的展開、現状、政策課題について解明する。またアメリカ経済の比較制度的な研究を重視するアプローチで講義する。こうしてアメリカン・スタンダードを知ることは、日本経済をいっそう深く知ることになろう。

［講義計画］

講義は、概ね前期と後期とに分けて行なう。各主題とも2回程度の講義である。

Ⅰ部　アメリカ経済の基本構造
　①産業構造と企業経営
　②多国籍企業とアメリカ経済
　③軍産複合体とハイテク産業
　④農業とアグリビジネス
　⑤金融市場の発展と金融革新
　⑥財政制度と財政政策
　⑦「ニューエコノミー」論の検討

Ⅱ部　アメリカ経済の対外経済関係
　⑧アメリカの貿易構造
　⑨国際通商法と国際貿易体制
　⑩アメリカの貿易匡正法と通商政策
　⑪多国籍企業と通商政策
　⑫ＮＡＦＴＡとアメリカ経済
　⑬日米貿易摩擦の歴史と現状

［成績評価の方法］

夏休み明けのレポートと年度末の筆記試験を総合的に判定する。

［教科書］

前期は、平井・萩原・中本・増田共著『概説アメリカ経済』（有斐閣）
後期は、中本　悟『現代アメリカの通商政策』（有斐閣）
テキスト通りに講義するので、事前に購入しておくこと。

［参考文献］

横田　茂編『アメリカ経済を学ぶ』（世界思想社）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
中国経済論		通　期	４単位	厳　善　平

［講義概要・学習目標］

マスメディアの発達によって、日本における中国の様々な情報が氾濫するほど多くなっている。しかし、中国が近くて遠いという人は決して少なくはない。

過去20年間、中国は内部の体制改革と対外開放を国策として掲げ、経済の発展をすべての政策の中心に据えてきた。その結果として、年平均10%近くの経済成長率が遂げられた。また、日本を含む世界各国との様々な関係が一層緊密化している。しかし一方では、急変する中国社会の中に多くの問題や矛盾が目立ってきている。

この講義で、現代中国社会、特にその経済の側面に解説の重点を置き、まず中国社会主義経済の成立→運営→改革の軌跡を簡単に触れる。そのうえ、改革開放以来中国の経済発展とその構造変化の諸側面を取り上げ、生の情報を交えながら、解説をしていく。また、講義の理解を深めるため、関連のドキュメンタリーも放映する。

この講義を受けることにより現代中国社会の諸相をより深く理解することができよう。

［講義計画］

一．毛沢東時代の中国経済
　１．中国社会主義経済の成立から改革までの軌跡――社会主義改造
　２．経済の成長メカニズム――農工関係の政治経済学
　３．社会経済の基本的仕組み――国営企業、人民公社
　４．社会主義経済を支える制度的基礎――戸籍制度、食管制度等

二．鄧小平時代の中国経済
　１．改革開放のプロセスとパフォーマンス――漸進的改革が良かったか
　２．市場経済を担う主役達――郷鎮企業、私営企業、外資系企業
　３．人口、食糧、資源、環境――中国経済発展の制約か
　４．「均富論」から「先富論」への方針転換とその結果――格差はどう見るか

［成績評価の方法］
前期レポート＋期末試験

［参考文献］
王曙光ほか編『最新教科書・現代中国』柏書房　1998年
など

［教科書］
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社　2000年　2800円

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
民法Ⅰ		通　期	４単位	林　錫　璋

［講義概要・学習目標］

日常生活の中で、もっとも関係の深い契約を中心に、契約の種類、契約の解釈、契約の当事者、契約の成立要件、そして、契約の無効と取消、債務不履行による契約解除と損害賠償、代理、無権代理などの問題につき、関連する法令をも含めて、民法の通説的理論及び判例を総合的に解説する。さらに、割賦販売、訪問販売、通信販売、クレジット契約、リース契約など現代的特殊契約の仕組みとその問題点についてもとりあげる。

なお、債権の発生原因である不当利得、事務管理、不法行為などをも順を追って講述する。

［講義計画］

１，市民法の現代的意義とその変貌　　２，私権とその制限
３，取引安全の保護　　４，時効制度について
５，物権的請求権について　　６，契約の意義と種類
７，契約の内容と解釈　　８，契約の当事者と契約の成立
９，無権代理と表見代理　　１０，意志表示の不一致
１１，瑕疵ある意志表示　　１２，契約の無効
１３，契約の取消　　１４，同時履行の抗弁と不安の抗弁
１５，危険負担　　１６，契約の法定解除と約定解除
１７，債務不履行　　１８，割賦販売・訪問販売と消費者
１９，リース契約　　２０，クレジット契約
２１，不法行為による損害賠償　　２２，過失責任と無過失責任
２３，交通事故による損害賠償　　２４，公害と環境問題

［成績評価の方法］
年度末試験を重視し、リポートと出席を加味して総合評価する。

［参考文献］
甲斐道太郎・石田喜久夫（編）『新民法教室Ⅰ、Ⅱ』（法律文化社）

［教科書］
谷口知平・甲斐道太郎（編）『新版　現代民法入門』（法律文化社）
判例六法編集委員会（編）『コンサイス判例六法」（三省堂）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
民法Ⅱ		通　期	4単位	林　錫　璋

［講義概要・学習目標］

「民法Ⅰ」を終えた者または受講中の者を対象として、物権法・担保物権法を中心に解説する。物権の性質、物権の変動、不動産登記、所有権、占有権、用益物権、質権、抵当権など企業実務や日常生活に関係の深い重要な問題につき、関係諸法をも含めて民法の仕組みと理論及び判例につき説明する。

できる限り判例の紹介と分析を取り入れ、また実務上で生じている問題を説明することとし、受講生は実務において法理論がどのように生かされ、関係づけられているかを学ぶようにしてほしい。なお、授業中は必ず六法を常に携帯すること。

［講義計画］

1．物権の性質
2．物権の変動
3．不動産の公示と対抗要件
4．即時取得
5．所有権
6．占有権
7．用益物権
8．人的担保制度・物的担保制度
9．法的定保物権
10．質権
11．抵当権
12．特殊な抵当権
13．仮登記担保契約
14．非典型担保
15．物権法と債権法の交錯

［成績評価の方法］

年度末試験を重視し、リポート、出席状況を参考にして総合評価する。

［教科書］

甲斐道太郎・石田喜久夫（編）『新民法教室Ⅰ』（法律文化社）
『岩波コンパクト六法』

［参考文献］

谷口知平・甲斐道太郎（編）『新版　現代民法入門』（法律文化社）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商法Ⅱ		通　期	4単位	牛丸　與志夫

［講義概要・学習目標］

手形法及び小切手法の基礎的な知識の修得をめざす。手形の振出、裏書及び支払等、為替手形の特則並びに小切手の特則を講義する。

［講義計画］

前期で、手形の振出に関する様々な問題を考察する。後期で、残りの問題を講義する。練習問題を解きながら、講義を進める。

［成績評価の方法］

試験

［教科書］

1，酒巻他5名著『テキストブック会社法（最新版）』
有斐閣ブックス（有斐閣）
2，『ポケット六法』（有斐閣）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
行政法		通期	4単位	寺田　友子

［講義概要・学習目標］

行政法とは、日本国憲法が規定する権力分立の下での行政の組織、作用及び手続に関する法全体をいう。日本国憲法は、生存権の保障等、種々様々な行政活動を要請している一方、行政の組織及び活動に関しては原則上、法律で規律することを要求している。しかし、法律を中心とする行政法は一律でないために、基本とする法典も存在せず、法令の数も非常に多い。この多様で広範にわたる行政法を総合的に認識するために、行政法学は抽象的な学問的概念を駆使して理論体系化を行ってきた。本講義は「行政をその行為形式によって把握し、説明する」伝統的な行政法の理論体系に基づいて、その行為形式中、最重要と解されてきた「行政行為」概念を中心に、その他の行為形式をも含めて理解を深めることを目標とする。その際、行政行為概念の基盤には取消訴訟が存在する。その帰結である判決を検討することによって、行政の執行過程についても理解を深めたい。その際、情報公開の意義についても認識したい。また、行政の違法行為に対する救済手段である取消訴訟における問題点等について理解を深めたい。また、行政の違法行為によって生じた国民の損害に対する救済手法についても検討したい。とともに、事後的救済だけでは十分に救済されないので、行政手続法に代表される事前手続についても理解を深めたい。

基礎知識を確実に理解するために、択一問題等を適宜解答してもらう。

［講義計画］

前期　行政法の基礎的問題
- §1　取消訴訟の一つの判決
- 2　行政と行政法
- 3　法律による行政法の原理
- 4　行政組織と行政立法
- 5　行政救済法の概略
- 6　行政行為の概念
- 7　行政手続

後期　行政行為と行政過程
- §8　行政行為の種別
- 9　行政行為の瑕疵
- 10　職権取消と撤回
- 11　行政計画
- 12　行政強制
- 13　行政調査
- 14　行政指導

［成績評価の方法］

基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出出席、及び授業時間内に行うテスト等も評価に加味する。

［教科書］

藤田宙靖『行政法入門』1996年　有斐閣
『ポケット六法　平成13年版』（有斐閣）

［参考文献］

『行政法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第4版）』有斐閣
塩野宏『行政法　Ⅰ』有斐閣
原田尚彦『行政法要論』学陽書房
小高剛『行政法総論』ぎょうせい

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本史	01	通　期	4単位	三　宅　正　彦

［講義概要・学習目標］

古代から現代にいたる日本の歴史を身分制度の展開を中心に追究する。原資料の読解にもとづいて講義を展開する。

［講義計画］

1. 古代律令制国家・王朝国家
2. 中世荘園制国家
3. 近世幕藩制国家
4. 近代天皇制国家
5. 現代民主制国家

［成績評価の方法］

期末試験。（講義に欠かさず出席して内容の理解に努めていれば単位取得は容易。欠席が多ければ困難）

［教科書］

資料を配布する。ただし，配布時に出席している人に1回限りで交付する。そのとき欠席した人に対する追加配布や持参するのを忘れた人に対する再配布は行わない。毎時，資料を参照しなければ講義の理解は困難になる。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本史	０２	通　期	４単位	横　井　清

[講義概要・学習目標]

古代～近代の日本史概説とする。

[講義計画]

まず「日本史の時代区分」について解説し、しかるのちに、時代順に概述する。

[成績評価の方法]

本年度平常授業の最終授業時間における筆記試験（試験期間外試験）による。

[参考文献]

随時、必要に応じて資料プリントを教室で配付する。

参考書は、随時、授業の中で紹介する。

[教科書]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
外国史	０１	通　期	４単位	坂　昌樹

[講義概要・学習目標]

社会科教育をおこなううえで必要なものの考え方に、重点をおいた授業をします。過去と現在をさまざまな視点から比較し、歴史をいかに学ぶべきか、また歴史からなにを学べるか一緒に考えていきたいと思います。

授業では高校用教科書を使っての模擬授業（前期）や、ビデオを見て感想文を提出していただき、それにもとづいた議論をおこないます（後期）。これらへ積極的に参加し、みなさん自身がこの授業をつくりあげてください。

学ぶテーマとしては西洋史をおもな対象とし、近代化の歪み（ファシズム、排他的民族主義など）や現代社会の諸問題（外国人労働者など）、さらに歴史教育上の諸問題（教科書問題など）を予定しています。しばしば現代の問題にも言及しますが、そうした問題の歴史的背景の透視や、歴史的に類似の問題の検討ができればよいと考えています。

[講義計画]

Ⅰ．導入：外国史の課題

Ⅱ．教育実習に向けて

① 模擬授業

高校『世界史』の教科書とその教育方法の検討

Ⅲ．過去から現在への歴史的連続性を考える（ビデオを利用）

① 社会的マイナリティーの歴史

ユダヤ人、移民、難民、外国人労働者

② 歴史教育を考える

歴史教科書と歴史観の問題

[成績評価の方法]

授業への積極的参加（模擬授業やビデオ感想文の提出）と学年末試験（受講者が少数ならレポート）などにより総合的に評価します。

[参考文献]

『詳説　世界史』（高校用世界史教科書Ｂ）山川出版社

[教科書]

指定しない。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
外国史	02	通　期	4単位	山　崎　充　彦

[講義概要・学習目標]

「歴史」の捉え方、教え方ほど難しいものはない。諸君たちのなかには、あるいは歴史とは単なる年号の羅列であると考え、歴史学習とは、年号と歴史的事件を暗記すればよいと思っている人がいるかも知れない。だが、歴史は年号の羅列ではないし、歴史研究・歴史学習とは決して暗記だけでこと足るものでもない。諸君らが、「歴史的事実」と確信していることであっても、その評価や位置づけは時代や人によって様々に変わることも稀ではない。

この講義では、まず、担当者が、歴史的なものの見方とは何かについて述べ、歴史の研究・解釈が研究する者の立場に依拠する実例を挙げて、「歴史研究の持つ危うさ」を指摘するところから始める。

[講義計画]

この講義は、教職科目でもあり、将来、社会科教師として実際に教壇に立つことを目指す人を念頭において、進めてゆく。

・担当者の講義
　1、歴史研究の持つ問題性
　2、ヨーロッパ中心史観の問題性
　3、現代史をどう解釈するか。
　4、歴史学における「政治的なるもの」

・ビデオ上映
　近現代史、歴史教育などに関するビデオを複数回観てもらい、それに関するレポートを提出してもらう。

[成績評価の方法]

学年末試験及びビデオに関するレポートなどで総合的に判断する。

[教科書]

使用しない

[参考文献]

参考文献は授業中に随時紹介するが、さしあたり、以下の文献を挙げておく。

・栗原　優、『ナチズムとユダヤ人絶滅政策　－ホロコーストの起源と実態』ミネルヴァ書房
・西岡昌紀、『アウシュウッツ「ガス室」の真実』、日新報道
・ハーバーマス、ノルテ他著、『過ぎ去ろうとしない過去　ナチズムとドイツ歴史家論争』、人文書院

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地理学概論 （旧自然地理学）	01 02	通　期 通　期	4単位 4単位	野尻　亘

[講義概要・学習目標]

地理学は「地域」・「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象としている。地理学も当然のことながら固有の理論や法則を持っている。本講では人文地理学・自然地理学の理論や方法論の基礎について、学説史の流れに沿いながら展望することとしたい。

地理学の論文を読む時、地理学の研究を行う時に必要な思想の体系についてわかりやすく解説する。

従って、中学・高校で学習する「地理」の授業の内容とは異なる話となることを予め承知していただきたい。

社会学・経済学・経営学を専攻する学生にとっての専門課程での教育内容と関連した授業を提供することを心がけたい。

[講義計画]

〈前期〉1. 探検記・産物誌から近代地理学へ　地理と地誌の違い
2. 生態学的視点と地域システム　フンボルト・リッター　ラッツエル・ブラーシュ
3. コロロギーから「地域分化」の研究へ　リヒトフォーフェン・マルテ・ハーツホーン
4. 地理学における例外主義批判と計量革命
5. 「地域」と「空間」の違い　流動を分析する視点グラヴィティモデル
6. 行動地理学とタイムジオグラフィー

〈後期〉7. 人文主義地理学　場所や景観の意味づけについて
8. マルクス構造主義と都市研究
9. 立地論　ウェーバー　輸送費・労働費・集積の利益
10. 立地論　レッシュ　市場の均衡と立地条件
11. 自然地理学の基礎
12. 日本の自然の特色と景観
13. 現代における地理学の課題

[成績評価の方法]

定期試験（持ち込み不可）。得点が上位から席次351位以下には単位を与えない。問題は客観テストと論述問題とする。

[教科書]

使用しない

[参考文献]

西川　治　『人文地理学入門』東大出版会

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
地誌	０１	後　期	２単位	野尻　亘

［講義概要・学習目標］
情報があふれている現代社会において、学校教育現場では何を世界地理の授業として教えるべきか。環境教育・人権教育・国際理解教育の基礎として、世界地誌の各テーマを取り上げ、社会科・地理歴史科の教材として開発し活用する方法について、検討する。
中学社会科・高校地理歴史科教職のための教科専門科目です。間違いのないように履修をしてください。教職以外の人はできるかぎり履修をしにでください。

［講義計画］
〈後期〉1. 地理学と地誌との違い
2. 景観・等質地域・結節地域の諸概念
3. 地域学習の教材をどのように見出すか
4. ヨーロッパの統合　EUの形成とその課題
5. 旧西ドイツの外国人労働者問題
6. アメリカ合衆国　開拓の理想と現実　インナーシティ問題
7. ラテンアメリカ　モノカルチュア経済の悩み
8. オーストラリア　白豪主義の克服　日本による資源開発
9. オセアニア　核実験に抗議する島々の暮らし
10. アフリカ　砂漠化と食糧問題
11. シベリア　開発とその課題
12. アジア　NIEs諸国の経済発展

［成績評価の方法］
定期試験で評価する（持込み不可）。得点による席次が上位から席次351位以下の者には単位を与えない。論述問題とする。

［教科書］
使用しない

［参考文献］
中学・高校時で使用した「地図帳」（出版社を問わない）を持参していただければ望ましい。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
地　　誌	０２	９月集中	２単位	古　田　昇

［講義概要・学習目標］
地域の特徴をとらえ、自然と人間の関わりをあきらかにすることが、地誌学習の大きな目標の一つである。
そこで、身近な大学周辺の地域を例に取り上げて、この課題にそって講義を展開していきたい。
大学の位置する大阪府は、日照時間が長く、我が国の中でもきわめて自然環境にめぐまれた地域のひとつである。国土のほぼ中央に位置し、五畿内の河内・和泉・摂津の３国をいだき、古くから開発が進んだこと、今日でも重要な国土軸の一翼を担っていることなど、その地理的特徴を知ることは、国土を理解する上できわめて意義深い。また、関西国際空港の開港など、関西における泉州の果たす役割は、近年ますます大きくなってきている。
本講義では、大学の位置する旧和泉国を中心とする地域のあらましを、自然・人文の両面の様々な角度から理解することを大きな目標の一つとしたい。
そのために、まず、和泉地方の詳細な地形環境とその変化を紹介するとともに、近畿地方における位置づけを説明する。
そして、和泉地方、さらには大阪の特徴を、我が国全体の中で、またグローバルな視野で位置づけられるよう、思考をはぐくんでいけるようなテーマを設定し、単調な講義だけの一方通行にならないように、視聴覚教材を活用しながら、興味深く進めていきたい。

［講義計画］
①日本列島の自然環境の特色と地域性
……地形環境・気候環境・植生・里山の環境など

②日本列島の縄文時代以降の開発の歴史と特色
……畿内・瀬戸内・大陸との交流を中心として

③近畿地方の地理的位置と開発
……最近の地理学・歴史学などの成果を紹介。大阪城と四天王寺、淀川と大和川など。
④和泉の地理的性格と地形環境の変化（その１）
……地形・地質の特質と比較。池上曽根遺跡等の成果から。

⑤和泉の地理的性格と地形環境の変化（その２）
……狭山池の築造と変化。久米田池の開発をめぐって。日根野荘の開発など。
⑥まとめ
……地形環境に対する理解を深めるため、２～３時間程度、キャンパス周辺を散策しながら、現地で解説を行う予定である。

［成績評価の方法］
出席状況、受講態度、レポートを総合評価する。
・９月集中という講義の性格上、まじめなで意欲的な受講を期待する。

［教科書］
特に定めない。

［参考文献］
『図説　日本の地域構造』石井素介・浮田典良・伊藤喜栄、古今書院。

『日本の気候』倉嶋厚、古今書院。　など。

多数あるので、講義中に随時紹介したい。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
職業指導		通　期	4単位	松　原　勇

[講義概要・学習目標]

２１世紀に入り、産業社会で働く職業人は、グローバル・スタンダードの識見とエネルギーに満ちた豊かな人間力を磨くことが大切である。現代のスピード化する産業社会が強く要請している職業人とは、高い志しを持ち、優れた職業倫理を身につけ「自覚・責任」を持つて職務に情熱を傾け、自己の魅力ある知性と感性を磨き、持てる能力を最大限に発揮できるように知識・技術の習得が求められる。
本講では、その趣旨を踏まえ、産業社会に対応できる職業意識の高揚を目指し、職業観を明確にして職業能力の適性を伸長させ、職業指導の重点的な本筋を究明して講義する。
併せて、就職活動の準備のための「期待される新職業人像」を網羅して、創造力・表現力等の方法論の実践指導も図る。

[講義計画]

1 職業指導と生涯教育　2 職業指導の必要性
3 就職活動への指針　4 就職試験の実践指導
5 期待される新職業人像　6 学生生活と社会生活の相違
7 働くことの意義　8 職業人の心得
9 業務の上手な進め方　10 ビジネス文書の書き方
11 電話の取り扱い方　12 職場の人間関係の重要性
13 創造力・表現力の実践指導　14 魅力ある職業人を目指して
15 職業人の人間力を磨く手法等

[成績評価の方法]

主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、コミュニケーション能力の実践面、期末試験等も勘案のうえ、総合評価とする。

[教科書]

松　原　勇（著）「経営革新時代の
新ビジネスマンの基礎知識」（ぎょうせい）

[参考文献]

＜００生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
哲学		通　期	4 単位	木　下　昌　巳

[講義概要・学習目標]

昨年度の本学の倫理学の授業のなかで学生諸君に「哲学に何を求めるか？」という質問をしたところ、少なからぬ人が「そもそも哲学というものが何を研究する学問なのかわからないので、答えようがない」という返答をした。実際、哲学の対象分野は明確ではないことは事実であり、「哲学とは何か？」という問い自体がすでに哲学的問題であると言うことができるだろう。しかし、対象分野は明確ではなくとも、さまざまな問題に対する哲学的なアプローチというものが存在すると考える。本講義では、過去の哲学者の思想を紹介しながら、哲学の基本的な問題とされてきた「世界の究極の存在とは何か？」（存在論）、「われわれは何を知ることができるか？」（認識論）・「われわれは何をするべきか？」（価値論）をという三つの問題を取り上げ、哲学的な問題意識のあり方というものに触れてもらい、そのうえで、現代に生きるわれわれの立場から、われわれとそれらの哲学的問題とのかかわりを考えてもらうことを目指す。

[講義計画]

最初に、われわれになじみ深い価値の問題から講義を始め、続けて、認識論・存在論へと進んでいく予定である。

[成績評価の方法]

学年末考査　80点
授業内の数回の作文　20点
の計100点満点で評価する。

[教科書]

特に指定しないが、授業のなかでテーマと関連する書籍をできるだけ紹介するつもりなので、自らすすんで読んでみることを希望する。

[参考文献]

「社会学科基礎演習」について

社会学部教授会

1992 年度より社会学部社会学科新入生を対象に開講されたこの「社会学科基礎演習」は、社会学部教員によって質疑応答可能な少人数クラスのゼミナール形式で運営される。そこでは、特定のテーマを選択し、それを研究するさまざまな方法や、その結果を報告したりレポート・論文に作成したりする基礎的な方法について指導をうけることになる。すなわち以下の４つの項目である。

① テーマの発見 ： 社会的現実への興味関心なくして社会学部の勉強はできない。
現実の中に問題を発見する方法がまず学ばれねばならない。

② 情 報 収 集 ： 特定テーマについて研究するのに必要な情報を探し収集する方法は、そのテーマに応じて多種多様である。情報源の種類は、単行本、雑誌、新聞などの活字メディアはもちろん、映像・音声メディアと多彩であり、さらには現場・現地における観察やインタビューや体験などもある。それらの情報を効率よく正確に探索し発見し入手する方法について学ぶ。

③ 情 報 解 読 ： 収集された多種多様な情報は解読され整理されねばならない。
たとえば本の読み方であり、新聞・雑誌の読み方である。あるいはテレビ・映画の見方であり、観察の仕方、体験の反省的検討の仕方である。それらの方法について学ぶ。

④ 口頭報告、討論、レポート・論文作成 ：

解読された情報は蓄積しておくだけではなく、表現され伝達されなければならない。
ゼミナールにおいて口頭で報告したり、討論し合ったり、さまざまなテーマについて小論文を書き添削指導を受けたり、また、年間を通じて特定テーマを選択し論文を書いたりすることを通して、研究発表の方法を学ぶ。

大学での４年間の学習において、また、卒業後の職業生活において必要なのは特定テーマについて情報を収集し・蓄積し、それらを解読・整理し、自分の問題関心や視点に基づいて再構成し、それを表現・伝達する力である。それは即席では身につかない。そこでこの基礎演習に参加して、その力を少しでもつけておくことが望ましい。ただし、開講される基礎演習の各クラス案内に書かれているように、取り上げられる具体的テーマや、指導において重点の置かれる項目にはかなりの違いがあるので、案内をよく読んで選択していただきたい。

科目名称 ： 社会学科基礎演習
対　　象 ： 社会学部社会学科１回生
形　　式 ： ゼミナール
定　　員 ： 30 名

「社会学科基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

ｸﾗｽ	担当者	研究テーマ	ﾍﾟｰｼﾞ
０１	上田　修	みんなで学ぶ・現代日本社会	227
０２	過　放	日本におけるエスニック文化	227
０３	北川　紀男	統計にみる日本の現状	228
０４	清水　由文	少子化社会を考える	228
０５	竹中　英紀	社会学の読み書き入門	229
０６	津金澤　聡廣	宣伝・広告史の研究	229
０７	津金澤　聡廣	集客の社会学	230
０８	中村　秀之	「ニッポンの常識」を疑う	230
０９	西川　一廉	人間関係の心理学	231
１０	原田　達	読む・話す・聞く・書くの基礎訓練	231
１１	松村　昌廣	社会学的想像力の育成	232

1．ゼミナール形式で授業を行うため、定員を 30 名とします。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがあります。

2．どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。

3．学則上、この科目は社会学部社会学科教育科目「学科選択科目（4 単位）」に位置づけられています。

4．履修登録にあたっては以下のとおり事前に予備登録（先着順受付）が必要です。

対象者：01SS 生（社会学部社会学科 1 回生）
定　員：30 名
日　時：4 月 7 日（土）　9:10 ～ 13:00（昼休憩なし）
場　所：学務課窓口
申込方法：先着順に受付決定します。学務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

＜注意＞ 申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限・時間割コードを確認しておいてください。

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０１	通　期	４単位	上　田　修

［演習概要・学習目標］

この演習の目的は、自ら考え、調べ、報告し、討論するという作業をおこなうことによって、学ぶことの楽しさを再発見することにある。すなわち、各自の問題関心にそって文献を調べ、資料を系統的に収集することで論点を導き出し、さらにそれにもとづいて報告をおこない、討論する楽しさを味わいながら研究能力の向上を図る。具体的対象は、各人の問題関心にまかせるが、採り上げられた問題……例えば、宗教、校則・いじめに典型される教育問題、家族の変容……が社会学的にいかに説明できるのかを、演習計画に示したプロセスをとおして考える。

［成績評価の方法］

①出席、②報告内容、③討論への参加、④レポートを総合勘案しておこなう

［教科書］

［演習計画］

1　班の構成
　①最初に、各自の問題関心にもとづくグループ化(班構成)をおこなうとともに、②文献・資料の調査方法、③報告の仕方、レジュメの作成について説明する。
2　第１次班別報告
　若干の準備期間を設けた後、1によって構成した班から１度に１テーマづつ報告をうけ、小グループ(3～4グループ)に分かれて討論をおこなう。グループ別討論のあと、全員で各班の討論内容を確認する。
3　ディベート
　班別の報告・討論が一巡した後、死刑廃止といったような是非の立場がはっきりと分かれるテーマをいくつか設定し、数人ずつに分かれ、パネルディスカッション形式でディベートをおこなう。(全員がパネルディスカッションに参加)
4　第２次班別報告
　ディベートの後、再び各自の問題関心にそって班別構成を再編し(希望者のみ：最初の班構成でもよい)、班別報告の第２ラウンドをおこなう。この際、グループ討論は、第１ラウンドより規模を大きくしておこなう。これによって徐々にではあれ、多人数のなかででも発言できる力をつけていく。
5　レポートの提出
　演習の最終段階において、報告・討論を踏まえたレポートの作成をおこなう。

［参考文献］

その都度、指示する。

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習 ── 日本におけるエスニック文化 ──	０２	通　期	４単位	過　放

［演習概要・学習目標］

わたくしたちは日常の暮らしのなかで、実は食文化からさまざまな商品、ブランドあるいはファッション、言葉など、いたるところで外国との交流や外国文化の影響を受けていると思われる。また世界各地から来ている外国人にたびたび出会うこともある。たとえば大阪にもそういうようなエスニック社会のようなものを見出すことができる。本演習では、このような日本におけるエスニック文化を考える。基本的にはそういう作業するために、問題の提起、資料の収集と学習、レジュメの作成、発表の仕方、レポートの書き方、現地調査（または人物訪問）などを通して日本におけるエスニック文化を明らかにしたい。

［成績評価の方法］

出席、調査報告、レポートなどにより総合的に評価する。

［教科書］

未定

［演習計画］

＜前期＞
1．パソコン・図書館の使い方など文献の探し方
2．文献の読み方
3．レジュメの作り方と報告
4．各自の問題関心の明確化
5．社会観察・調査の仕方
6．夏休みのレポートの課題

＜後期＞
1．夏休みのレポートの報告
2．テキストの発表と討論

［参考文献］

随時提示する。

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０３	通　期	４単位	北川　紀男

［演習概要・学習目標］

この演習は、学問をすることのおもしろさを、さらには社会学を学ぶことのおもしろさを知ってもらい、社会学への動機付けをおこなうことを目論んでいる。同時に、社会学を学ぶ基礎的な素養を身に付けさせることも課題である。演習では、政治・経済・文化にかかわる５５項目の統計資料に基づいて、わが国の現状を把握させると共に、この考察を通じて社会学的な考え方を身に付けさせたいと考えている。

授業では、各テーマごとに担当者を決めて報告さ、レポートを提出させる。テーマの内容については、講義計画を参考にされたい。演習科目であるから、報告の準備を怠らないことは云うまでもないが、授業に出席することが先ず第一であり、欠席することは厳に謹んでもらいたい。また、演習の主役は学生諸君である。演習では、積極的に発言するように心がけて欲しい。

［演習計画］

＜前　期＞

①大学生活について

②社会学とは何か

③以下の項目を順次取り上げる

人口、労働、国民所得、エネルギー、資源、農業、林業、水産業、工業、サービス業、食料、商業、企業、貿易、国際収支など

＜後　期＞

①前期に続いて、以下の項目を取り上げる

運輸、通信、マスコミ、広告、レジャー、教育、社会保障、保健・衛生、環境問題、災害・事故、犯罪、警察、国防と自衛隊など

②２回生以降の学習計画について

［成績評価の方法］

授業での報告、レポート及び出席状況に基づいて総合的に評価する。６回以上欠席した者は、評価対象としない。

［教科書］

矢野恒太記念会編・矢野一郎監修『日本国勢図会　２０００』２０００年（国勢社）

［参考文献］

必要に応じて、その都度紹介する。

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０４	通　期	４単位	清　水　由　文

［演習概要・学習目標］

女性が生涯において産む平均子供数をあらわす合計特殊出生率は１９９９年には１．３４まで減少しており、先進国のなかでも日本は超少子化の国になってしまった。現在の人口を維持するにはそれが２．１以上でなければならないといわれている。このままであれば、子供人口は老齢人口に追い抜かれることになる。ここではそのような少子化現象の原因およびそれにより生じる問題を検討することにしたい。本演習では基本的にそのようなテーマの理解ために、①　いかに情報を収集するか、②　どういう点が問題か、③　それをいかにまとめるか、④　いかに報告するか（口頭や書くこと）という作業をとおして進めていく。

［演習計画］

（前期）　①　図書館での資料収集　②　インターネットのホームページによる資料収集　③　ワ－プロの基礎的練習　④報告レジュメの作り方　⑤　報告の仕方

（後期）　①　グループでのテキストの報告　②　レポートの書き方　③　各自のテ－マで最終レポートの作成

［成績評価の方法］

①　出席、②　授業での報告、③レポートで総合評価する

［教科書］

授業時に提示する

［参考文献］

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習 ——社会学の読み書き入門——	05	通　期	4単位	竹　中　英　紀

［演習概要・学習目標］

社会学とは、人間の集団や社会の仕組み、社会現象が生じるメカニズムについて研究する学問である。この演習では、そのような社会学の基本的な考え方を知るため、①読み書き討論に関する若干の予備学習期間を経たあと、②人間が集団を成して生活しているいくつかの場——家庭、学校、職場、地域など——に即して学習、共同研究、個人研究を進めていくことにしたい。

具体的には、各自の関心に応じてグループを編成し、テキストの輪読、資料収集、レジュメの作成、口頭発表、討論、レポート作成などに挑戦してもらう。

［演習計画］

（前期）
- 社会学の作法／初級編
- テキスト（新書など）の輪読
- レジュメの書き方、質問・討論の仕方
- 各自の問題関心に応じたグループの編成
- 読書レポート

（後期）
- グループごとの共同研究、発表・討論
- 研究レポート

［成績評価の方法］
受講態度、レポート等によって総合的に評価する。

［教科書］※5冊とも購入すること
（全般）野村一夫『社会学の作法・初級編』文化書房博文社
（家庭）山田昌弘『パラサイト・シングルの時代』ちくま新書
（学校）苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』中公新書
（職場）小笠原祐子『OLたちの〈レジスタンス〉』中公新書
（地域）本山ちさと『公園デビュー』学陽文庫

［参考文献］
P・L・バーガー『社会学への招待』新思索社
R・コリンズ『脱常識の社会学』岩波書店
苅谷剛彦『知的複眼思考法』講談社
佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社

［Webサイト］
野村一夫『ソキウス——見識ある市民のための社会学リファレンス』　http://socius.org/

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０６	通　期	４単位	津金澤　聡　廣

［演習概要・学習目標］

研究テーマ「宣伝・広告史の研究」

宣伝・広告の歴史やその研究史の学習をとおして、現代社会における宣伝・広告の果す社会的機能やその問題点について検討を進めたい。

［演習計画］

教科書の内容に添って次のテーマで学習する。

1. 宣伝・広告以前の宣伝・広告活動
2. 政治宣伝と広告活動
3. 広告代理業の胎頭
4. 宣伝合戦の先駆的・実力者たち
5. 生活文化革新の演出者
6. 画家・文筆家の系譜
7. 宣伝・広告研究史の課題

以上

［成績評価の方法］

出席状況，発表，レポート提出など平常点と学期末試験による総合評価。

［参考文献］

その都度指示する。

［教科書］

山本武利・津金澤聡廣著
『日本の広告 —人・時代・表現—』
世界思想社，1992年。

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０７	通　期	４単位	津金澤　聡　廣

［演習概要・学習目標］

研究テーマ：集客の社会学

これまで未開拓な研究分野といえる「集客」現象に注目し、その実態や集客産業の現状、かつ、集客理論の研究史について基礎的学習から進めたい。
夏休みには、基礎演習参加者全員が各自任意の集客施設を探訪実査し、その報告書を作成し、検討・考察を深める。

［演習計画］

教科書の学習から出発し、問題点の把握に務める。
1、集客産業の実態について学習する。
2、各種集客施設の内容の検討。
3、夏休み中に、各自任意の集客施設をえらび、探訪実査して、報告書を作成し、論点を整理・考察する。
4、集客の社会学：集客理論の基礎について学習。
5、集客産業の基本特性とは？
6、集客都市のマーケティング
7、戦後日本の集客史研究
以上。

［成績評価の方法］

出席状況、発表・報告、レポート提出などの平常の学習努力を総合的に評価する。

［参考文献］

その都度指示する。

［教科書］

貴多野乃武次『集客のプランニング・ランゲージ』遊時創造，'97
同　上　『集客都市』APS，'98

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０８	通　期	４単位	中　村　秀　之

［演習概要・学習目標］

比較社会論のテキストを使いながら、〈読む〉〈書く〉〈話す〉〈調べる〉、そしてもちろん〈考える〉――以上についての基礎的なトレーニングを行う。
テキストの各章について、
①テキストの精読、②内容についての討論、③発展学習とその成果の報告、
④報告についての討論、⑤個別小レポートの作成、を行う（報告はグループ作業とする）。
学年末には各自が自主的に設定した課題について個別にレポートを作成してもらう。

［演習計画］

Ⅰ　ウォーミング・アップ：知の技法と作法、ハードとソフト
Ⅱ　テキストの輪読と発展学習
　序　グローバル時代を生きる
　1　教育　：　ニッポンは*学歴社会*か？
　2　宗教　：　*洗脳*社会の謎
　3　ジェンダー　：　*主婦*する・しないの選択
　4　芸術　：　アートはビジネスになりうるか
　5　企業　：　*異文化*理解の落とし穴
　6　エスニシティ　：　私の*異文化*体験・〈福祉〉の現場から
　7　価値観　：　フェアって何？
Ⅲ　自由課題による学年末レポートの作成

［成績評価の方法］

出席・報告・小レポート・学年末レポートなどを総合的に判断して評価する。

［参考文献］

授業中にそのつど指示する。

［教科書］

苅谷剛彦（編）『比較社会・入門　グローバル時代の〈教養〉』（有斐閣選書、1997 年）

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０９	通　期	４単位	西川　一廉

［演習概要・学習目標］

「人間関係の心理学」が当演習のテーマである。
いつの時代でも，多様な人間が集まる社会では，いろんなことが起こる。特に現代社会では，さまざまなことがめまぐるしく起こっている。新聞を広げれば，うれしいことや楽しいこともあるが，悲しいこと，腹の立つこと，嘆かわしいこと，忌まわしいことなど枚挙にいとまがない。まさに現代はストレス社会といって過言ではない。
　そのストレスの最大の要因に人間関係がある。もちろん人間関係はうまくいっている限りにおいて，喜びの源泉でもある。いずれにしても人と人との関係は見えないだけにやっかいな代物である。
　当演習の目的は，その見えない人間関係を心理学に軸足をおいて考えることにある。したがって，人間心理に関心のある人に応募してほしい。

［演習計画］

人間関係に関する諸問題を持ち寄り，小ループに分かれて討議する。そこでの焦点は人間の感情である。そのために，まず基礎知識として必要と思われる感情に関する諸概念を学習する。
　またグループ討議の結果はレポートにまとめて，クラスで報告する。グループは適宜，組み替える。したがって全員が報告の機会をもつ。

［成績評価の方法］

出席，報告，討議への参加，レポートをもとに総合的に評価する。

［教科書］

未定。

［参考文献］

随時，指示する。

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	１０	通期	４単位	原田達

［演習概要・学習目標］

演習のテーマは＜社会＞と出会うこと。
　解るようで解らないのが＜社会＞、出会ってないようで出会っているのが＜社会＞、出会っているのにであっていることに気づかないのが＜社会＞、この奇妙な＜社会＞というものに出会い、気づき、解ることを演習のテーマとしたい。
　まず、語り合うことから始めたい。＜語り＞の中にすでに＜社会＞はある。と同時に、＜語り方＞を身につけよう。
　ついで＜読むこと＞、さらに＜書くこと＞、そして＜観ること＞、その度に君たちは＜」社会＞と出会うことになるだろう。こうして、社会学の基礎を身につけてゆくはずだ。

［演習計画］

まず自らを語ることから始めたい。その語りを多謝に伝えること。これが簡単なように見えて、結構むつかしい。ぼくたちは自己呈示（プレゼンテーション）の仕方を知らない。その技法を身につけること。
　その次は「適当」な本を読む。「適当」というのは「いいかげん」という意味ではない。みちたち自信が「これは！」と感じた本のこと。そこに「社会」を発見すること。
　その上で、きみたちの「社会」との出会いを書く。それは本がもたらした「社会」との出会いだ。こうして準備が整う。
　最後に社会を観ること。きみたち自信の感性で人と街、ファッションと振る舞い、行動と雰囲気を観ること。観察眼が養われるだろう。

［成績評価の方法］

総合的に評価する。とりわけ積極性。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

演習のなかで指示します。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
社会学科基礎演習 （社会学的想像力の育成）	１１	通　期	４単位	松村昌廣

［演習概要・学習目標］

この演習は大学で社会科学を専攻しようとする学生に自己啓発的な学習意欲を持たせ、学問的な方向付けをすることを目的とする。このため主として古典書を読ませながら、「人間生活と社会」について考察させ、現代社会の諸問題を初歩的に研究させる。

１　導入　１）大学の意義と大学生活の仕方について
　　２）社会学専攻の意義と当基礎演習の目的及び進め方について
　　３）成績の評価方法（出席・報告討論・レポート）

２　課題問題
　　１）人間とは何か（人間観）
　　２）人間社会とはどんな仕組みになっているのか（社会観）
　　３）政治とはなにか（政治観）
　　４）学問とは何をどうすることなのか（学問観）

［演習計画］

３　課題
１）カール・セーガン「コスモス」（朝日書店）
２）時実利彦「心と脳の仕組み」（講談社学術文庫）
３）シューマン「国際政治（上巻）」（東大出版会）
４）プラトン「国家」（岩波文庫）
５）アリストテレス「ニコマコス倫理学」（岩波文庫）
６）「孔子・孟子」の孔子の部分（中央公論社「世界の名著」）
７）同書、孟子の部分
８）「老子・荘子」の老子の部分（同上）
９）同書、荘子の部分
１０）ホッブス「リバイアサン」（同上）
１１）ルソー「社会契約論」（岩波文庫）
１２）トゥクビル「アメリカの民主主義」（「世界の名著」）
１３）「ベンサム・ミリ」のベンサムの部分（同上）
１４）同書、ミルの部分
１５）マルクス・エンゲルス「ドイツ・イデオロギー」（岩波文庫）

［成績評価の方法］

１　出席　４０％　　２　レポート　６０％　（４点　Ｘ　１５回）

評価の目安

８０～１００％	A
７０～７９％	B
６０～６９％	C

［教科書］

各自、「講義計画」で指定してある書籍を準備しなさい。古典作品は様々な出版社から発売されている。内容を確認したうえで、指定の出版社以外のものでも何ら問題はありません。

［参考文献］

「社会学科文献演習」クラス一覧

ｸﾗｽ	担　当　者	ﾍﾟｰｼﾞ	ｸﾗｽ	担　当　者	ﾍﾟｰｼﾞ
０１	大谷　信介	234	０６	清水　夏樹	236
０２	片桐　新自	234	０７	谷　富夫	236
０３	片桐　新自	234	０８	谷　富夫	236
０４	小牧　一裕	235	０９	野々山　久也	237
０５	捧　堅二	235	１０	藤森　勉	237

1．ゼミナール形式で授業を行うため、定員を 30 名とします。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがあります。

2．どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです

3．学則上、この科目は社会学部社会学科教育科目「学科選択科目（4 単位）」に位置づけられています。

4．履修登録にあたっては以下のとおり事前に予備登録（先着順受付）が必要です。

対 象 者 ： 00SS 生（社会学部社会学科 2 回生）
定　　員 ： 30 名
日　　時 ： 3 月 24 日（土）　9:10 ～ 13:00（昼休憩なし）
場　　所 ： 学務課窓口
申込方法 ： 先着順に受付決定します。学務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

＜注意＞ 申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限・時間割コードを確認しておいてください。

＜００SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科文献演習	01	通　期	4単位	大　谷　信　介

［演習概要・学習目標］

この演習では、社会学・都市人類学の古典として全世界的に読まれてきた『ストリート・コーナー・ソサエティ』を素材として、論文の輪読とそれについての議論をゼミ型式でおこなう。この本は、1930年代のアメリカでおこなわれたイタリア系移民のスラム街を対象とした参与観察研究であり、社会調査の古典としても高く評価されている。

［演習計画］

前期は、主としてテキストの輪読と議論に当てる。
後期は、他の質的調査法を実施した研究にもふれ、多角的に議論を展開する。

［成績評価の方法］

平常点とレポートによる総合評価

［教科書］

W.F.ホワイト著(奥田道大・有里典三)『ストリート・コーナー・ソサエティ』
東大出版会　1999年

［参考文献］

＜００SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科文献演習	０２ ０３	通　期 通　期	4単位 4単位	片桐新自

［演習概要・学習目標］

少人数クラスの特性を生かし、相互的コミュニケーションを繰り返すことで、多人数講義ではできない学習を行う。具体的には、受講者が指定された文献をきちんと読み、レジュメを作り、報告をし、議論をするということが主になる。他にも、現代社会で生じている様々な問題に関しても議論をし、社会学的に考えていく訓練も行う。
具体的に取り上げるテーマは、「歴史的環境」である。我々は、日頃歴史を実感することなく生きているが、もちろん実際にはすべての人間は歴史の中で生きている。そうした歴史を感じることができるのが、歴史的環境である。なじみのある言い方では、「古都」や「古い町並み」ということになるだろうか。しかし、「歴史的環境」はもっと広く捉えることが可能だし、またそう捉えるべきである。「歴史的環境」概念を広く捉え、それを守るための活動や、それを現代社会の中でどう生かしていくのか、様々な事例を通して学んでもらう。

［演習計画］

とりあえず、前期は、片桐新自編『歴史的環境の社会学』新曜社を輪読する。それとともに、現在生じている様々なニュースについての発表と議論を行う。受講人数と受講者のレベルに合わせて、夏期休暇中の課題や後期の計画は決めていく。

［成績評価の方法］

平常点（出席、報告の仕方、レジュメの出来、議論への参加度とレベル）とレポートで、評価を行う。

［教科書］

片桐新自編『歴史的環境の社会学』新曜社

［参考文献］

必要に応じて指示する

＜００SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科文献演習	０４	通期	４単位	小牧一裕

［演習概要・学習目標］

社会心理学に関する文献・論文を読み、その理論と研究技法を学ぶ。人間の社会的行動について、その法則性を探り、理解を深める。ゼミ形式による学生参加型授業であるため、授業への積極的参加が不可欠である。

［演習計画］

社会心理学の基礎的な文献及び論文を輪読し、それについて議論を行う。また、実際に簡単な調査票を作成し、研究技法についてもその基礎を学習する。

［成績評価の方法］

積極的な授業への参加、レジュメ、発表、出席などを総合的に評価する。

［教科書］

必要に応じて指示する。

［参考文献］

対人社会心理学重要研究集　１～７　誠信書房

＜００SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科文献演習	０５	通期	４単位	捧　堅二

［演習概要・学習目標］

日本と戦争がテーマである。

全員が関連する書物を10冊以上読むのが目標であり、

この授業はそのための支援でしかない。

毎回の授業は、過去のことを単に「過去」のこととして認識するのでなく、「現在」にかかわる論争点として把握することにポイントをおいて、歴史上のテーマについての基本的な解説と、さまざまな論争点の説明を行うのが中心だが、必要に応じてヴィデオ映像の鑑賞も実施する。また短い参考資料（複写物）を読んでもらい短い文章を書いてもらったりすることもある。

［演習計画］

昭和の歴史を終戦まで見てゆく。

戦争責任問題や「歴史修正主義」についても

紋切り型の「二項対立」を超えた視点に立って

検討する計画である。

真珠湾攻撃、７３１部隊、満州国、昭和天皇、２・２６事件、

北一輝、小林よしのり、Ｊ・Ｇ・バラード、高橋是清、など。

［成績評価の方法］

出席重視。
１０回程度のレポートと小テストによる。

［教科書］

江口圭一『二つの大戦（体系日本の歴史・第１４巻）』小学館、９５１円
教科書というよりも、昭和史についての基本的知識を共有するための本として全員が購入し、毎回持参すること。

［参考文献］

講義の際、随時、印刷物によって、多数の参考文献を紹介する。

その中から選択して１０冊以上の本を読んでもらう。

＜００SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科文献演習	０６	通　期	４単位	清　水　夏　樹

［演習概要・学習目標］

サブカルチュアの社会学

習俗や流行現象をはじめとする下位文化の動向について学ぶ。
高度情報化、大衆消費社会の到来にともなうsub-culturalな変貌を扱い、とくに時代の起伏、転換点に照準し、
一．宗教ブームとその底流
一．大衆音楽歌謡の変遷
一．その他
をとりあげる。これを主眼とするテーマに各自取り組んでもらう。購読用のテキスト以外に諸文化、思想、映画、演劇、スポーツ等、関連するジャンルの資料を通して意欲的に消化に努めること。戦後５０年史をいくつかの角度から顧みる好機でもあり、その間の世代間移行から「時代のリサイクル」への射程のなかで、文化資源－再生力とは何かを考えるきっかけとしてほしい。

［演習計画］

前期．青年世代の今昔とyouth culture,「聖」「俗」「遊」の価値観 ― 三極構造とフレーム移行、大衆社会の動態的諸相 sub-cultureにおけることばと情報メディア、メッセージ、記号、バーチャル体験とゲーム感覚

後期．大衆文化と機械的メカニズム、流行歌謡史にみる時代の感受性 ― 開放的「前進」基調と情緒的「回想」基調、新旧の競合と時代のリサイクルほか前期の補充と各自のテーマに沿った個別指導に充てる。

［成績評価の方法］

［参考文献］

追って講義中に指示する

［教科書］

＜００SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科文献演習	０７ ０８	通　期 通　期	４単位 ４単位	谷　富　夫

［演習概要・学習目標］

社会学の古典に親しむ。社会学に限らずどんな学問でも、古典は学習の出発点であり、また、繰り返し読むに値する知識の源である。しかし、古典は取っつきにくく、難解な言葉も多くて、独学には困難が多いことも事実である。そこで、この機会に共同で学習に取り組むことによって、古典を身近なものにしてもらいたい。

［演習計画］

授業の進め方は、第１回目の授業で指示する。

［成績評価の方法］

出席状況、授業態度、報告内容、学期末レポート等を総合的に評価する。

［参考文献］

授業中に随時指示する。

［教科書］

マックス・ウェーバー（大塚久雄訳）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫版）

＜００SS生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科文献演習	０９	通期	４単位	野々山久也

［演習概要・学習目標］

この文献演習では、家族についての社会学的知識を学習することを目的にしている。ここでいう家族は、集団としての家族である。テキストであるカンターとレアによって著わされた『家族の内側』は、観察法によって研究された成果を家族システム論として展開している。フロイトの精神分析の理論を彷彿させるような、詳細な家族システムのメカニズムの分析を展開させている。家族についての臨床的アプローチの基礎理論を提示しているといってよい。

専門書を読むことは、たしかに小説や週刊誌を読むのとは違って、なかなか難しい。じっくりと腰を落ち着けて読みはじめなければならない。しかし読み終えたあとの満足感は、小説や週刊誌の比ではない。殊にそれが体系だった理論書であれば、なおさらである。

本書は、なかなか難解な文献である。しかし対象が家族であるということから、まったく理解できないなどということはない。ただシステム論的アプローチを家族に応用していくプロセスには気を抜かずに読みすすむ必要がある。具体的な事例も豊富であるから、しっかり読みすすめば、難解であると思われるところも、意外と面白かったりする。読み終えあと、家族システム論的分析への関心は倍増するいはずである。また、自分の家族について今までとはまったく異なった見方ができるようになるだろう。

［演習計画］

＜ 前期 ＞

1．内側からの研究
2．システム論的アプローチ
3．三つの下位システム
4．接近次元と目標次元
5．接近の方法（空間）
6．接近の方法（時間）
7．接近の方法（エネルギー）

＜ 後期 ＞

1．接近の方法（計画と戦略）
2．家族の類型（構造的配置）
3．家族の類型（目的・欠陥・理想）
4．家族内における個人（４単位の構成）
5．家族内における個人（戦略的相互作用）
6．距離調節のモデル
7．家族の発達

［成績評価の方法］

授業中の発表と夏休みのレポートと期末のテストの総合的な評価で成績を決定する。出席は、とくに重視する。欠席の回数によっては単位を出さない。

［教科書］

カンター＆レアー（共著）『家族の内側　―家族システム理論入門―　』（垣内出版　１９８８年）

［参考文献］

野々山ほか・編『いま家族に何が起こっているのか』（ミネルヴァ書房）など。
その他、授業の進展にそくして、その都度、随時紹介していく。

＜００SS生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科文献演習	１０	通期	４単位	藤森勉

［演習概要・学習目標］

人文地理学に関する演習を行う。人文地理学は研究対象によってさまざまな分野があるが、教科書として使用する本書は、関西大学を中心とする研究者が、大学における演習用教科書として編集したもので、幅広い人文地理学の内容を理解させることができる。

［演習計画］

新訂人文地理に掲載されている20編の論文から、各自関心の深いテーマを選んで解説させ、討論によって内容を深めさせる。

［成績評価の方法］

授業中の発表・討論、小レポートをもって評価する

［教科書］

椙尾弘行・橋本征治編　新訂人文地理　大明堂発行

［参考文献］

＜９８～００SS生、９７Ｓ生以上対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学基礎講義	０１	通　期	４単位	竹　内　真　澄

［講義概要・学習目標］

私たちが生きる過程でどのような種類の「社会」に遭遇するか考えてみると、まず普通は家族（言葉）に出会う。そして友だち→学校→市場・会社（仕事）などという具合いに、おおむね狭くて単純な関係から広くて複雑な関係へと広がっていく。だが、人間が社会と遭遇する時間的な順序は、現実における諸「社会」間の規定一被規定の論理的順序に対応していない。むしろ逆に、例えば、経験される最初の「社会」である家族は、後続の会社や学校（あるいは国際関係）によって強力に規定されているのである。経験にとって後から登場する遠隔化された「社会」のほうが、前に知った「社会」のあり方を制約＝決定している。だから、自明のように見えた身近な「社会」を遠隔化されたメカニズムとの関係で「再」経験するのが、社会学の面白さと言ってよい。講義ではこのことを不断に考慮しながら、原理的なテーマへ降りていくことと、ぎゃくに今日的なテーマへ昇っていくことを往復しながら進めていきたい。

［講義計画］

前期

まず、社会学的な発想に入門するために、大きな基礎的テーマとして、＜人間と社会との歴史的なつながり＞について考えることにしたい。とくに、人々が当り前だと思っている行動様式がいかに歴史的、社会的に異なっているのかを具体的な事例から考える。社会学の一般的な図式、接近方法、概念を頭に入れる。これは、具体から抽象へ進む思考訓練である。

後期

現代日本の社会問題の諸相を考える。社会学は結局のところ、なんらかのかたちで社会問題の解決のために役立つものであるし、またそうでなくてはならない。前期に、具体から抽象された諸概念を引き出したのと対照的に、後期は具体的な社会問題を単純な概念の総合として論理的に再構成し、診断をくだす。なぜ問題が生じるか、どうすれば問題を解決できるかをセットで考察する。

［成績評価の方法］

出席、レポート、年度末試験の成績を中心に総合的に評価する

［教科書］

［参考文献］

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫
ポール・ウィリス、熊沢誠訳『ハマータウンの野郎ども』ちくま文庫
大田昌秀『沖縄平和の礎』岩波新書
川人博『過労自殺』岩波新書
渡辺治『現代日本の政治を読む』かもがわブックレット
東大社会科学研究所編『現代日本社会１』東大出版会
小倉千加子『セックス神話解体新書』学陽書房

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社　会　学　基　礎　講　義	１１	通　期	４単位	北川　紀男

［講義概要・学習目標］

この講義は、これから社会学を本格的に学ぼうとする人々にとって、文字通り基礎的な知識を提供することにある。そこで先ず、社会学とはどういう学問であるのかを、その研究対象、考え方、その学問的特徴を概説することから始める。その上にたって、家族、地域社会（農村と都市）、職場（会社と組織）と云った具体的な日常生活の場を取り上げて考察する。ついで、激しく変動する現代社会を捉える視点として社会変動の問題や、社会調査をはじめとする社会学の研究方法に触れるつもりである。

この講義は、はじめて社会学を学ぼうとする者にとって、道案内的な役割をも担っており、ここでの学修の成否は、社会学部での４年間の成果を左右する極めて重要な意味をもっているので、特に心して受講して欲しい。

［講義計画］

＜前　期＞
①社会学とはどういう学問か
②社会学の研究対象
③社会学的なものの見方
④家族
⑤農村
⑥都市

＜後　期＞
①職場
②組織
③労働
④社会変動
⑤社会調査
⑥社会問題

［成績評価の方法］

前期末及び後期末のテスト、レポート、出席状況に基づいて総合的に評価する。講義時間数の３分の１以上を欠席した場合には、評価対象としない。

［教科書］

秋元律郎・石川晃弘・羽田新・袖井孝子著『社会学入門（新版）』１９９５年（有斐閣新書）

［参考文献］

講義中に適宜紹介する。

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学基礎講義	１２	通　期	４単位	木下　栄二

［講義概要・学習目標］
本講義の目標は、本格的に社会学を学ぶための基礎的な知識とセンスの習得である。あらゆる社会現象を対象とする社会学は、実に多様かつ複雑であるが、根底には共通する基礎的な考え方が存在している。講義では、できるだけ身近で平易な例を取り上げながら、社会学の基礎知識の習得、それ以上にセンスを磨くトレーニングを目指していきたい。

［講義計画］
（1）社会学へようこそ（４月）：
社会学はこんなこともやる！こんなこともできる！という例を紹介して、社会学の面白さ、多様性、奥の深さを学ぶ。
（2）社会学の巨人達（５～６月）：
人に歴史があるように、社会学にも歴史がある。社会学を作ってきた先輩達について少しは知っておこう。
（3）地位ー役割論（６～７月）：
たいてい人間は、なんらかの地位をもって社会のなかに位置付けられてしまう。そして地位によって期待される行動も異なる。良い悪いはいろいろあるが、とにかくそうでないと社会が認識しにくい。基礎理論としての地位ー役割という考え方をしっかり習得しよう。
（4）現代社会のトレンドを学ぶ（後期）：
「今」はどういう時代なのか？　具体的な現代社会のトレンドを対象としながら、社会学的思考法に磨きをかけよう。「男と女」「高齢社会」「高度消費社会」「国際化」などについて議論してみたいと考えている。

［成績評価の方法］
後期試験70%、小レポート10%、小テスト10%、出席10%
なお、理由なく無断で10回以上欠席の者は不可とする。詳細については、最初の授業で説明する。

［教科書］
特に指定せず

［参考文献］
森下伸也・君塚大学・宮本孝二『パラドックスの社会学』新曜社
川崎賢一・藤村正之編『社会学の宇宙』恒星社厚生閣
『別冊宝島176　わかりたいあなたのための社会学・入門』宝島社
高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学基礎講義	１３	通　期	４単位	竹　内　真　澄

［講義概要・学習目標］

私たちが生きる過程でどのような種類の「社会」に遭遇するか考えてみると、まず普通は家族（言葉）に出会う。そして友だち→学校→市場・会社（仕事）などという具合いに、おおむね狭くて単純な関係から広くて複雑な関係へと広がっていく。だが、人間が社会と遭遇する時間的な順序は、現実における諸「社会」間の規定ー被規定の論理的順序に対応していない。むしろ逆に、例えば、経験される最初の「社会」である家族は、後続の会社や学校（あるいは国際関係）によって強力に規定されているのである。経験にとって後から登場する遠隔化された「社会」のほうが、前に知った「社会」のあり方を制約＝決定している。だから、自明のように見えた身近な「社会」を遠隔化されたメカニズムとの関係で「再」経験するのが、社会学の面白さと言ってよい。講義ではこのことを不断に考慮しながら、原理的なテーマへ降りていくことと、ぎゃくに今日的なテーマへ昇っていくことを往復しながら進めていきたい。

［講義計画］

前期
まず、社会学的な発想に入門するために、大きな基礎的テーマとして、＜人間と社会との歴史的なつながり＞について考えることにしたい。とくに、人々が当り前だと思っている行動様式がいかに歴史的、社会的に異なっているのかを具体的な事例から考える。社会学の一般的な図式、接近方法、概念を頭に入れる。これは、具体から抽象へ進む思考訓練である。
後期
現代日本の社会問題の諸相を考える。社会学は結局のところ、なんらかのかたちで社会問題の解決のために役立つものであるし、またそうでなくてはならない。前期に、具体から抽象された諸概念を引き出したのと対照的に、後期は具体的な社会問題を単純な概念の総合として論理的に再構成し、診断をくだす。なぜ問題が生じるか、どうすれば問題を解決できるかをセットで考察する。

［成績評価の方法］

出席、レポート、年度末試験の成績を中心に総合的に評価する

［教科書］

［参考文献］

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫
ポール・ウィリス、熊沢誠訳『ハマータウンの野郎ども』ちくま文庫
大田昌秀『沖縄平和の礎』岩波新書
川人博『過労自殺』岩波新書
渡辺治『現代日本の政治を読む』かもがわブックレット
東大社会科学研究所編『現代日本社会１』東大出版会
小倉千加子『セックス神話解体新書』学陽書房

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学基礎講義	１４	通　期	４単位	中村秀之

［講義概要・学習目標］

この授業の目的は、社会学の入門・基礎の段階で不可欠な諸事項を*修得*することにある。
社会学的な思考法とはどういうものか？　社会学と隣接諸学問との差異／共通点は何か？
社会学は何を対象とするのか？　基礎的な概念にはどのようなものがあるか？
これまでの社会学を形づくってきた主要な学説や理論にはどんなものがあるか？
社会学は何の役に立つのか？　などなど…。

［講義計画］

1　科学するとは何か
2　社会学と隣接諸科学
3　行為と役割
4　組織と集団
5　構造と変動
6　シンボルと秩序
7　フェミニズムとジェンダー
8　東京化と地域社会
9　外国人労働者と日本
10　第三世界と世界システム

［成績評価の方法］

レポート・試験などを総合的に判断して評価する。
＊遅刻・途中退出、私語、携帯電話の着信音を鳴らすなどの不適切な行為は、当然、マイナス評価の対象となる。

［教科書］

今田高俊・友枝敏雄（編）『社会学の基礎』（有斐閣、1991 年）
＊適宜プリントを配布する。

［参考文献］

授業中にそのつど指示する。

＜０１SS生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学基礎講義	１５	通期	４単位	原田達

［講義概要・学習目標］

理論的で難しい話はしないし、できそうもない。何ごとにつけ理論的「基礎」は最後にやった方がいいと思っている。むしろ初学者には興味を惹く話を。
そこでここでは、暴走族や結婚披露パーティ、テレビ・ドラマのタレントの人気投票、市民マラソンや山登り、就職戦線の心理や豪華な産婦人科病院などを例にして、「社会」を解読することを試みたい。日常的で小さな出来事の解読から社会学にいたる、初学者には、その醍醐味こそが社会学を学び、社会学を実践しようとするための基礎となるだろう。
この講義は「出来事の社会学」への招待であり、社会学へのイントロダクションをめざしている。

［講義計画］

「講義概要」で述べたとおり、いくつかの出来事を例にして講義をおこなう。取り上げるテーマは次のとおり。
暴走するこころ、儀式の消費、宙づりのことば、タレントの薫り、「ねば」と「たい」、走るこころ、女たちを読む（現代小説を手がかりに）、ツーリズム文化の現在、等々。

聴くだけではなく、刺激を受けてくれることを期待します。そして、その刺激がきみたちの（「社会学的」）行動に影響を与えることを希望します。

［成績評価の方法］

試験をします。

［教科書］

使用しません。

［参考文献］

参考になる文献・資料などはＨＰにて公開しています。